

# エゾノアツ



2011 夏季号 97

北海道ボランティア・レンジャー協議会

# 目 次

97号 夏季号

抱負 (2)

会長 春日 順雄

## 1 平成23年度 第26回 定期総会から

- ・総会 報告
- ・総会 議案 抜粋

広報部

## 2 観察会、下見研修などから

- ・春香山登山観察会
- ・春のありがとう観察会 (5月8日) に参加して
- ・下見会に参加して
- ・新しい試み (観察会の下見)
- ・北広島レクの森下見会に参加して
- ・蜂、特にスズメバチ撃退について

小樽支部 大磯 邦子  
江別市 藤田 潔  
江別市 土屋 忠司  
千歳市 宮本 健市  
札幌市 熊野 美子  
富良野市 南部 栄一

## 3 調査、研究、旅など

- ・平取町の植物
- ・花を求めてレイクルイーズの旅 (カナダ)

平取町 川村 桂介  
恵庭市 小林 英世

## 4 連載

- ・ササの枯れたこと

苫小牧市 谷口勇五郎

## 5 福島レポート

札幌市 安倍 隆

## 6 研修会の案内など

- ・研修会のご案内
- ・平成23年度 オホーツク支部秋季研修会
- ・ボランティア・レンジャー育成研修会
- ・事務局便り
- ・NOWの原稿 1、2、特別号

事務局  
オホーツク支部事務局  
自然ふれあい交流館  
事務局

## 7 下見などの研修会での資料から

- ・野鳥観察が初めての人たちのための「野鳥観察入門」  
ガイドを中心に
- ・マルハナバチ

札幌市 道場 優  
千歳市 宮本 健市

<編集後記>

## 抱負(2)

春日 順雄

昨年今の頃の「エゾマツ」に「抱負」と題した文を掲載させて頂きました。「抱負」を補完するという願いを込めて「抱負(2)」を書きます。私たちは、観察会の下見や観察会本番など慌ただしくボラレン業務をこなしていますが、これらの活動に方向性という一本のスジを通すために抱負や希望を持ち、その実現に気配りすることは大事なことと思います。

### いい「自然の案内人」になるために

#### 1. 観察会下見を研修の場に

札幌実施の観察会は、観察会の下見そして本番と続く形で実施しています。体験的に述べてみます。今から、8年前ボラレン会員なりたての私は、この二日間日程の下見の場で沢山学ばせて戴きました。先輩諸氏すべてが我がオッシュウサン(師匠)であり、今日の私があるのは観察会下見のおかげと考えております。今年度は会員の皆様の協力を得て、下見の場を研修の場という試みを行っております。話題提供者の労力の多さに対する配慮など、今後の課題とすることも多いのですが、目を輝かせて学ぼうとする多くの会員がいますから、嬉しいことであります。ボラレンの会の継続のためにも「学び続ける」は、大事なことです。

#### 2. 観察会案内を二人おこなう試み

このことについては、会員のN氏がその必要さを力説されておりました。偶然にも今春、市民参加者が少なく、ボラレン会員参加者が多い観察会がありました。そこで、主となる案内者、サブに回る案内者という形で二人体制の観察会を実施しました。いつも参加する市民のTさん曰わく。「同じものでも案内人によって切り込み方が違って面白い。」と、いうのです。参加者の立場でボラレンの仲間の案内を受けることは、自分の足りなさを実感するいい機会となりました。このような形の観察会を意図的に行うこともいいことだな、と思うのであります。

### 全道的なボラレン活動の高まりを

現在、支部活動を行っているのは、札幌・小樽・オホーツクの三つです。そして、準支部的な活動でお世話になっているのが富良野と鶴川です。そして、支部や準支部に所属していない沢山のボラレン会員が全道におられます。これらの人たちとのつながりを強くしていきたいと思うのであります。

今年度は、6月26日に十勝支部の設立総会を帯広市で行います。帯広在住の小野寺さんには大変お世話になります。新しい支部の設立は嬉しいことであります。

ボラレンの力量を考え年度ごとの提案としているものに、「支部を代表して総会に出席するときは旅費の助成をする。」と、いうことがあります。今年の総会には、オホーツク支部を代表して和泉さんをご出席くださいました。遠路はるばる有り難いことであります。そして、富良野の南部さん、小樽の北原さん、鶴川の門村さん。ボラレン活動にご配慮下さる多くの人たちに感謝であります。

地方から札幌開催の観察会に出席する場合の旅費の助成についても総会で承認されていますが、昨年度実績で苫小牧から何度も通われてきておられる人に助成を行いました。

このようにささやかな財政規模の中でボラレン会員のつながりを紡ぐことは大事なことだ

と思うのであります。

道の環境局環境推進課は平成21年11月「北海道ボランティア・レンジャー育成研修会受講者」に対して「ボランティア・レンジャー活動状況調査」を実施しました。その結果については、昨年（平成22年）9月に、道から皆様にお知らせが届いております。この調査の結果、北海道ボランティア・レンジャー育成研修受講者の中に自然観察の案内などの活動意欲をお持ちの方が沢山おられることが判明しました。その中で、ボラレンへの氏名提出を承諾された方に対して昨年からはボラレン会員入会の勧誘を行ってまいりました。

嬉しいことに21名の入会者がありました。大部分が支部組織もないところにお住まいの会員であります。ボラレン組織としてこれらの人たちに何が出来るか。加入された熱き思いを充足させるようなボラレン活動の展望と活動が望まれていると思うのであります。

## ボラレン会員の心をつなぐ

今回入会された人の便りの中に「機関誌を楽しみにしています。」と、いうのがありました。貴重な励ましの言葉であります。

年4回発行の機関誌「エゾマツ」は、主として会員の皆様の投稿原稿が載せられます。いい内容や着眼点の原稿がイッパイです。気取らなくて、それでいて学問的で、投稿者の自然への迫り方や日常生活が分かるようで、温かくて、読み応えのある「エゾマツ」であります。これからも、全道に展開する会員の皆様の投稿がたくさんあって、自然情報の交流があって、知的好奇心を満足させてくれるような「エゾマツ」であり、会員間の心を紡ぐものでありたいものであります。

ボラレンにはメーリングリストという情報のやりとりが出来るしくみがあります。会員全員がパソコンをもっているわけではないので一般化出来ないのですが、便利なものです。パソコンを通して会話を盛んにし自然情報を流したり、分からないことを問い合わせたりしてボラレンへの所属感をもつこともいいことだと思っております。

## ボラレン組織を引き継ぐ

昨年度は、ボラレン活動の先達として活躍された人が退会しました。高齢による健康上の理由でした。人は皆、有限の時を生きています。誰の身にも等しくいずれ訪れることでありましょう。

このような状況の中で、ボラレンが不死鳥のごとく命をつないでいくには、少しずつでもいいから若い人たちへのバトンタッチが必要です。しかし、働き盛りのボラレン会員は日本社会の担い手として大変忙しいのであります。最近では65歳までが現役と考えた方がいいでしょう。

ボラレン役員は、若い人に入っていただきながら、そのセンスを生かし66歳前後の役員が実務を牽引する形がいいのではと考えます。

## 無理のないボラレン活動

札幌の場合は毎回の観察会出席は負担になっているのではないのでしょうか。観察会の種類によっては当番制を考えるなどの工夫をした方がいいのかな、と思うのであります。

## ＜第26回 定期総会＞ 成功裡のうちに

多くの方々が会に加入され、ひとまわり大きな成長をめざして

広報部

総会は4月16日(土)、Lプラザ2階で行われ、成功裡のうちに終了した。

総会に先立って、小樽支部長の北原武さんが「ボラ・レン小樽支部の活動の十数年—前田一步を受賞して—」の講演があった。少年時代、長野でクロスズメバチを追いかけ、捕った話をユーモアを交えて話された。子どものころ、野山を駆け巡ったことが、今日の自然観察、調査、保全活動に役立っていると思われた。また、後半では野草愛好会の人たちと毎年「植物標本」展示会を開いて、それを「市総合博物館」に寄贈されている。その標本の一部を持参され、標本のつくり方、シダ、イネ科など種の特徴を説明された。

総会は117名(出席者38名、委任状79名 計117名 会員総数147名)の圧倒的多数で開催した。

会長の春日さんから、総会の表紙—野幌森林公園でガイドをした対雁小学校の元気なみなさん、好評だったNHKギャラリーでの『作品展』、十勝支部設立の動きなどが話された。

来賓として出席された道環境課推進行動推進グループ主査の林由美子さんから、道の育成研修会に参加された人たちへのアンケートから自然観察、調査などの活動に参加してみたい人が多くいること。そのうえ、自然のもっている力は大きいので、多くの人たちに元気を与えるような活動を期待している、と励ましのメッセージをいただいた。

つづいて、自然ふれあい交流館副館長の松井則彰さんから、交流館が主催する観察会の行事には約900人も参加され、近年では最も多い人数となっている。さらに今年も充実した『育成研修会』を行っていきたいと話された。林さん、松井さんからは、休日にもかかわらず総会に参加してくれて、温かい連帯の挨拶をいただいた。

総会は吉田政徳さんを議長に選んで、1号議案、事業報告、会計決算報告などがあり、その報告のなかに、小樽支部長の北原さん、オホーツク支部長の和泉さんからも支部の活動状況のレポートがあった。北原さんからは雷電山登山にふれ、登山観察会などでは特に注意が必要であること、和泉さんからは子どもの自然観察会、野鳥の巣箱作成の協力などが話された。第1号議案は拍手で承認。

第2議案、今年度の方針、予算が提案された。参加者から「育成研修会」を札幌以外の地域で開催することはできないか、という意見が出された。財政上のこともあって困難なようです。第2号議案も拍手で確認。つづいて、室野事務局長が作成した一年間の活動の記録を美しい映像で楽しんだ。最後に、福島出身の仲間から東日本震災、原発被災への義援金協力の呼びかけがあって、多くの会員が積極的にカンパ協力してくれた。

今年も昨年に続き、様々な行事に取り組んで、わが会を質量とも発展させていきたい。

# 1号議案

## 1. 平成22年度事業報告

### (1) 観察会事業

### 平成22年度 観察会・研修会事業

月	行事名	実施月日	下見参加者	集合・解散場所	主/共	担当	参加者	
							一般	会員
4	春の花を見つけよう	22日(木) 10:00~12:30	15日(木) 8名	交流館集合・解散	共催	室野・菅	79	13
	セイヨウオオマルハナバチ防除	25日(日) 9:30~12:00		恵庭公園駐車場 集合・解散	主催	宮本・室野	中止	2
5	春のありがとう観察会	9日(日) 10:00~14:30	8日(土) 11名	交流館集合・解散	共催	小林・室野	32	14
	恵庭公園観察会	23日(日) 10:00~12:00	22日(土) 7名	恵庭公園駐車場 集合・解散	主催	小林・松井	8	10
	三角山登山観察会	30日(日) 10:00~14:00	29日(土) 6名	緑花会館登山口 集合・解散	主催	熊野・菅	21	5
6	森の新緑観察会	6日(日) 10:00~12:30	5日(土) 12名	交流館集合・解散	共催	今村・内山	125	
	北広島レクの森観察会	13日(日) 10:00~12:30	12日(土) 8名	レクの森入口集 合・解散	主催	佐藤・我妻	21	9
	様似研修会	19日(土) ~ 20日(日)		アボイ岳研究支 援センター前19日 (土)13:00	主催	小林・五十嵐		10
7	初夏の森観察会	4日(日) 10:00~12:30	3日(土) 12名	交流館集合・解散	主催	春日・小林	20	14
	芸術の森周辺観察会	11日(日) 10:00~12:30	10日(土) 8名	芸術の森停留所 前集合	主催	安倍・成田	10	8
	オオハンゴンソウ防除	25日(日) 10:00~12:30	24日(土) 7名	交流館集合・解散	主催	室野・内山	20	17
	江別教育委員会依頼観察会	30日(金) 13:00~15:30	29日(木) 15名	大沢口集合・解散	主催	熊野・菅	84	15
8	夏の森の観察会	5日(木) 10:15~12:30	7月29日 (木)10名	村集合・瑞穂の池 解散(時計回り)	共催	菅・室野	54	14
9	江別市対雁小学校4年生観察会	10日(金) 9:30~11:30		交流館集合・解散	主催	事務局対応	112	13
	秋の花でにぎわう森を歩こう	12日(日) 10:00~14:30	11日(土) 13名	交流館集合・解散	共催	小林・三崎	79	12
10	ボラレン会員作品展	17日(金)~ 22日(水)	搬入16日 15:00~	(会場)NHKギャラ リー	主催	田村・熊野		
	育成研修会	1日(金) ~ 3日(日)		交流館・野幌森林 公園内	共催	菅・五十嵐	22	17
11	秋の森の匂いをかこう	14日(木) 10:15~14:30	7日(木) 6名	村発着(交流館昼 休憩)	共催	熊野・室野	100	
	晩秋の森観察会志文別コース	3日(水) 10:00~14:30	2日(火) 8名	交流館集合・解散	主催	佐藤・春日	5	10
	秋のありがとう観察会	7日(日) 10:00~12:30	6日(土) 10名	交流館集合・解散	共催	今村・小林	54	13
1	西岡水源地自然観察会	23日(火) 10:00~12:30	22日(月) 9名	管理事務所前集 合・解散	主催	熊野・伊藤	8	9
	円山登山観察会	16日(日) 10:00~12:30	15日(土) 6名	円山登山口集合・ 解散	主催	菅・熊野	7	6
2	藻川研修会	22日(土) ~ 23日(日)		ウトナイ湖集合	主催	小林・春日	中止	中止
	冬の森の観察会	13日(日) 10:00~12:30	12日(土) 13名	交流館集合・解散	共催	室野・小林	33	10
3	藻岩山登山観察会	20日(日) 10:00~14:30	19日(土) 5名	慈啓会登山口集 合・解散	主催	三崎・高松	5	5
	森の中で春を探そう	20日(日) 10:00~12:30	19日(土) 13名	交流館集合・解散	共催	菅・室野	48	14
参加者合計			187名				947	274

研修会・観察会・下見参加者 会員数 461名 一般参加者 947名

ボラレン展 担当 会員 11名 展示会一般閲覧者 315名

## (2) 地方・支部の活動報告

### ①小樽支部活動報告 . . . . . 北原 武氏

実施日	行き先	一般参加	ボラレン	補助員	合計	備考
5月8日(土)	オタモイ～赤岩	42	6	5	53	
6月13日(日)	軍事道路	38	4	3	45	
7月3日(土)	雷電山	15	3	1	19	
9月4日(土)	塩谷丸山	10	3	1	14	
10月17日(日)	小樽・松倉山	18	3	2	23	
11月7日(土)	天狗山	16	4	1	21	納会
2月5日(土)	オタモイ～祝津	17	3	1	21	カンジキ歩き
3月26日(土)	春香山	16	2	2	20	カンジキ歩き
合計		172	28	16	216	

### ②オホーツク支部活動報告 . . . . . 和泉 勇氏

9月4日(土)～5日(日) 「オホーツク支部 研修会・観察会」 参加者 10名

◇テーマ:「野生りんごから酒を作る話」、「アッケシソウの話」

◇講師:境 博成 氏(元東京農業大学 教授)

◇観察会:呼人探鳥遊歩道(網走湖に突き出る呼人半島の東側自然林)

### (3) 研修会事業

①4月17日(土) 総会時研修会

参加者 37名

◇テーマ: 「鶴川河口域の野鳥」

◇講師: 門村 徳男 氏 (長年にわたり鶴川地域の野鳥を観察調査を行う)

②6月19日(土)～20日(日)「様似研修会」 参加者 10名

◇テーマ:「高山植物の再生作業の体験」「様似山道を歩く」(アポイファンクラブとの懇親)

アポイ岳調査研究支援センター

③7月25日 特定外来生物オオハンゴンソウの防除

◇参加者 会員 17名 一般参加者 15名、ふれあいセンター 4名 記念館 1名

◇成果 約8000本

④1月22日(土)～23日(日)「鶴川研修会」 参加者 少数のため中止

◇ウトナイ湖、鶴川の冬鳥

### (4) 他団体への協力・派遣事業

(事務局対応)

①道立野幌森林公園管理運営協議会

清掃活動

6月24日(木) 「クリーンクリーン野幌森林公園」

雨天のため中止(11名)

10月14日(木) 「クリーンクリーン野幌森林公園」

5名参加

②石狩地域森林環境保全ふれあいセンター

野幌間伐前希少野生生物調査

4月22日(木)	会員10名	センター4名
4月30日(金)	会員6名	センター3名
5月8日(土)	会員8名	センター3名
6月5日(土)	会員8名	センター2名
6月12日(土)	会員4名	センター2名
合計	会員40名	センター14名

③江別市教育研究所 「江別市教職員夏期セミナー」講師派遣

7月30日(金) 13:00~15:30 大沢口集合 カツラコース・大沢コース  
会員15名 教職員 85名 10班編成

④江別市対雁小学校 「4年生総合学習観察会」ガイド要請

9月10日(金) 9:00~11:00 大沢口 昭和のカツラ、自然ふれあい交流館  
会員13名 生徒 112名 12班編成

(5) 広報誌「エゾマツ」の発行

(広報部担当)

6月18日(金)	エゾマツ夏季号	93号
10月25日(月)	エゾマツ秋季号	94号
2月2日(水)	エゾマツ冬季号	95号
3月24日(木)	エゾマツ春季号	96号

(6) 自然観察NOWの発行(野幌森林公園 主・共催の観察会に配布)

4月22日(木)	No.1	(春日順雄)「芽吹き」「食痕」「フクジュソウ」「フクロウ」
5月9日(日)	No.2	(春日順雄)「サクラ」「セイヨウオオマルハナバチ」
6月6日(日)	No.3	(佐藤清一)「ホオノキ」「地球の生物の歴史」
7月4日(日)	No.4	(春日順雄)「特定外来生物」
8月5日(木)	No.5	(佐藤清一)「ノリウツギ」「スズメバチ」
9月12日(日)	No.6	(五十嵐一夫)「虫こぶ」
10月14日(木)	No.7	(小林英世)「雪虫ってなあに」
11月7日(日)	No.8	(谷口勇五郎)「フユシヤク」「ドングリ」「エゾシカ」「冬芽」
2月13日(日)	No.9	(安倍 隆)「エゾフクロウ」「冬芽」
3月20日(日)	No.10	(成田伸一)「木部 前形成層(一次)・形成層(二次)」

(7) 会議

第1回役員会議	5月7日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー(欠席2)
第2回役員会議	9月2日(木)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー(欠席4)
第3回役員会議	2月3日(木)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー(欠席2)
第4回役員会議	4月11日(月)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー(欠席2)

(8) 北海道ボランティア・レンジャー育成研修会への協力

6月6日(日)	自然ふれあい交流館との打ち合わせ				
8月6日~15日	協力者要請(菅)、協力者会議の設定、ハガキ送付(事務局)				
9月2日(木)	18:30~20:30	第2回役員会議	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
9月9日(木)	18:30~20:30	育協力者会議	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー



10月1日(金)～3日(日) 育成研修会 野幌森林公園 自然ふれあい交流館  
受講者 22名(受付時 30名) 協力会員 17名 交流館スタッフ 5名  
ボラレン入会者 11名

11月4日 18:30～ 育成研修会反省会 サッケンビル地下「ボレール」 参加者15名

### (9) 育成研修会受講者への入会勧誘

・石狩、オホーツク、十勝、釧路、後志地区に会員入会の勧誘活動 ボラレン入会者13名

### (10) 主催事業のPR活動など

#### ①印刷物を通して

1. 北海道ウォッチングガイドへの掲載依頼(4月 メールにて年間スケジュールを依頼)
2. 札幌市環境局発行「エコポロ」 ※札幌市の主催観察会(4月 メールにて依頼)
3. 暮らし新聞「まんまる新聞」 ※野幌森林公園の主催観察会(行事前 メールで依頼)
4. チラシの作成・配布(前期4月印刷、後期9月印刷 各1000枚)  
配布先 西岡公園事務所、札幌市各区民センター(郵送)、江別市公民館、自然ふれあい交流館、森林の家、厚別東まちづくりセンター
5. みどりバンク通信 イベント情報 北海道林務部環境局 森林活用課みどり対策グループ

#### ②インターネットを通して

1. ホームページ 観察会・北海道ボランティア・レンジャー育成研修会情報の更新
2. メーリングリストの参加者への情報発信
4. 北海道新聞のイベント情報への掲載

「野幌森林公園のオオハンゴンソウの拡大を防ごう。」

特定外来生物「オオハンゴンソウの防除」

<http://www.hokkaidou-np.co.jp/cont/eventdata/89636.php>

5. 北海道環境財団のホームページ イベントカレンダーへの主催事業の掲載  
<http://enavi.hokkaido.net/event/index.php?cid=&smode=Daily&caldate=>

### (11) 北海道環境事務所への防除認定の申請

・特定外来生物「オオハンゴンソウの防除」認定の更新(平成33年3月31日まで10年間)  
防除の主体になっているので環境庁のホームページに掲載されている。

### (12) 札幌市エルプラザへの登録申請

・市民活動団体の登録更新(2年間)

総会、役員会議の場所の提供、エゾマツ発行の印刷室、製本場所の提供など

### (13) ボラレン展(自然に魅せられて 写真・工芸・絵画展)

平成20年9月17日(金)～9月22日(水) 会場 NHK ギャラリー

- ・平成20年1月申込 田村、2月9日実施日の決定、
- ・2月14日ボラレン展準備委員会 田村、熊野、春日、内山  
5月～7月中旬まで出展者の募集、(エゾマツ93号、メーリングリスト、電話)
- ・7月15日 NHKへ出展者名簿の提出、8月25日NHKと打ち合わせ
- ・9月9日 写真のマット紙貼り付け、9月16日 16:00から作品の搬入、展示
- ・9月17日 11:30～始まる番組「つながる北カフェ」ボラレン展の紹介され春日会長がインタビュー応じ2分間放映された。
- ・9月22日 15:00 展示物の排出、NHKの番組に対する意見交換が行われた。

平成22年度決算報告ならびに監査報告

平成22年度収支決算書(案)

平成22年4月1日～平成23年3月31日

収入額 762,941円

支出額 474,152円

差引 288,789円(次年度へ繰越)

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
前年度繰越金	295,615	295,615	0	
年会費	390,000	393,000	3,000	131件×3000
雑収入	54,385	74,326	19,941	保険料、協力謝礼金、ハンドブック売上代
合計	740,000	762,941	22,941	

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
総務部費	100,000	101,069	1,069	通信費、事務用品費、振替手数料、会議費
事務局費	100,000	57,534	▲ 42,466	通信費、事務用品費、印刷費
研修部費	150,000	86,620	▲ 63,380	研修会謝礼金、研修雑費、ポラレン展費用
活動費	190,000	83,828	▲ 106,172	地方支部活動費、研修会助成
広報部費	130,000	115,101	▲ 14,899	会報エソマツ制作費、郵送費
予備費	40,000	0	▲ 40,000	
特別会計	30,000	30,000	0	特別会計へ繰り入れ
合計	740,000	474,152	▲ 265,848	

単位:円

特別会計(特別積立金)				摘要
前年度繰越金	増加額	減少額	本年末残高	
321,092	30,131	0	351,223	一般会計より繰入30,000・貯金利息131

平成22年度財産目録

平成23年3月31日 単位:円

借方		貸方	
通常貯金	640,012	一般会計繰越金	268,789
		特別積立金	351,223
計	640,012	計	640,012

備品

救急医療セット1箱・聴診器5本・望遠鏡2台  
双眼鏡15台・簡易アイゼン5脚

監査報告書

私たち監事は、会則第12条の5に基づき、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの会計処理について、会計帳簿および証憑書類を精査確認した結果、適正なものと認めます。

平成23年4月11日  
北海道ボランティア・レンジャー協議会

監事 成田 伸

監事 高松 文雄

高松

## 2号議案

### 1. 平成 23 年度事業計画

#### (1) 事業計画の方針

目標「自然との共存、日常の実践から」

##### 重点

- ①会員の意見や社会の要請を受け止め、会の活動改善に生かす。
- ②観察会と研修会の充実につとめる。
- ③育成研修会での入会者の勧誘につとめる。
- ④全道的な視野に立つ。

##### 具体化の視点

- ①ボラレンの進む方向と活動領域の広がりを模索する。
- ②会務のシステム的な遂行を試みる。
- ③下見と下見後の開花情報を効果的なものにする試み。
- ④育成研修会のボラレン担当部分の充実につとめる。
- ⑤主催事業の PR につとめる。
- ⑥メーリングリストを有効に活用する。
- ⑦ホームページの充実を試みる。
- ⑧ボラレン活動の全道的な活性化を目指す。平成 23 年度も継続する。
  - 会員入会勧誘と支部立ち上げの働きかけを試みる。
  - 支部を代表して総会出席者への旅費の助成
  - 地方会員が札幌の観察会に出席する際の旅費助成・年間 3 名

##### 《会のカラーとして》

○ボラレンで活動することが楽しい、楽しいコミュニケーションがある。

#### (2) 会議

##### 役員会議

第 1 回役員会議	5 月 6 日 (金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第 2 回役員会議	9 月 2 日 (金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第 3 回役員会議	1 月 27 日 (金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第 4 回役員会議	4 月 13 日 (金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー

※参考 平成 24 年度 定期総会

平成 24 年 4 月 21 日 (土) 札幌エルプラザ 環境研修室

#### (3) 観察会・研修会・調査活動

- ①観察会については別紙による。またサークル活動の観察会があれば随時実施する。
- ②研修会については別紙による。会員の要望と必要に応じ実施する。
- ③研修会、講演会の実施により、会員の資質の向上を図る。
- ④観察会の下見と実施後の反省をもとにした記録の集積を図る。

#### (4) 活動領域の広がり

- ①特定外来生物の防除を行なう。
  - 北海道のセイヨウオオマルハナバチの防除 (北海道主体)
  - 野幌森林公園のオオハンゴンソウ防除 (北海道ボランティア・レンジャー協議会 主体)

**(5) 第32回北海道ボランティア・レンジャー育成研修会（野幌森林公園）**

①実施日：平成23年10月21日（金）～23日（日）

②育成研修会へ最大の協力を行ない、新会員の確保に努める。

**(6) 他団体への協力**

①観察会のガイド要請については、主催の目的などを把握して協力していく。

②各関係機関や団体が行なう自然環境保全に関わる行事や調査には積極的に参加していく。

**(7) 広報誌「エゾマツ」の発行**

①年4回（6月下旬、10月下旬、1月下旬、3月下旬）の発行

②誌面内容と体裁の充実に努力していく。

③野幌森林公園で行なう自然観察会の一般参加者に「自然観察NOW」を配布 年10回

**(8) 支部や地方会員の活動の活性化**

①支部や地方会員の活動に積極的に参加する。

②各会員の思いや要望の発信を受け止めたり、広報誌による交流を活性化させる。

③地方会員の札幌開催の観察会出席者への旅費の助成

（昨年度の実績 苫小牧市 新谷さん 1人）

④メーリングリストを活用した情報発信による交流

**(9) PR活動**

①ホームページによる観察会、育成研修会の情報を発信する。

②自然ウォッチングやエコポロ、まんまる新聞への情報の掲載

③チラシを作成し、札幌市民センター、江別の公民館、自然交流館、森林の家（森林公園内）

**(10) ボラレン活動の全道的な活性化を目指す試み（平成23年度も継続）**

1. 育成研修会受講者でボラレンに加入していない人への参加の働きかけを行ないます。

（前年度は53名の勧誘を行ない13名が入会した。）

2. 支部立ち上げの機運が出てきた時には、積極的に支援します。

平成23年6月26日 十勝支部 設立総会・観察会

3. 支部を代表して総会に出席する1名については、旅費の実費を助成します。

（1）最も経済的な交通機関を利用することとします。

（2）上限を、1万円とします。

（3）申込先は、事務局とします。

4. 地方会員の札幌で開催する観察会に出席する場合は、旅費実費を助成します。

（1）最も経済的な交通機関を利用することとします。

（2）年間、3名とし、先着順とします。

（3）上限は、1万円とします。

（4）小樽・千歳・当別・岩見沢以内は除外します。

（5）申込先は、事務局とします。

※3・4に記す事項は、ボラレンの会計規模を考慮し、各年度の提案事項とします。

実施期間は、平成23年4月16日～平成24年4月16日までとします。

## 平成23年度予算(案)

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	備 考
前年度繰越金	288,789	295,615	
年会費	405,000	390,000	会員135×3000円・
雑収入	46,211	54,385	保険料、協力者礼金・
合 計	740,000	740,000	

### 支出の部

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	備 考
総務部費	180,000	100,000	総会費、役員会会費、振替手数料、腕車など備品
事務局費	100,000	100,000	通信費、事務用品費
研修部費	130,000	150,000	研修会講師謝礼金、育成研修会経費
活動費	150,000	190,000	地方支部活動費、研修会等助成
広報部費	130,000	130,000	会報えぞまつ制作費、郵送費、取材経費
予備費	20,000	40,000	
特別会計	30,000	30,000	特別積立金へ繰り入れ
合 計	740,000	740,000	

### 2011年度 小樽支部自然観察会予定表

No.	月 日	曜日	行き先	行 程
1	5月 6日	金	オタモイ・赤岩	オタモイ交番前～ホテルノイシュロ祝津
2	6月11日	土	軍事道路	朝里～張碓橋
3	7月16日	土	ニセイカウシュベツ山	上川町中越～古川林道～山頂・自家用車乗り合わせ
4	9月10日	土	銭函・天狗岳	小樽市桂岡～
5	10月22日	土	五百羅漢・潮見台	小樽市潮見台・宗円寺
6	11月12日	土	天狗山	納会
7	2月 4日	土	穴滝	カンジキ歩き
8	3月24日	土	塩谷丸山	カンジキ歩き

#### ※注意

1. 約1週間前、道新小樽版、読売金曜夕刊等に集合場所、時間等を掲載します。
2. 天候などの都合で日時等変更することがあるので、事前の申込を願います。
3. 参加料は1人300円、交通費は各自負担願います。
4. 自家用車の方はその旨連絡願います。(駐車場の状況・乗り合わせの可否)
5. 問い合わせ先は、0134-27-1701

北海道ボランティア・レンジャー協議会 平成23年度 観察会・研修会事業

月	行事名	実施月日	下見 話題提供	集合・解散場所		備考	担当
4	春の花をまつけよう(野視) エゾユズリハ～志文別～大沢	21日(木) 10:00～12:30	20日(水) 道場優	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	室野、内山
	セイヨウオオマルハナバチ防除(野視)	30日(土) 10:00～12:30	29日(金) 宮本健市	開拓の村入口 エゾムラサキツツジ	主催	開拓の村駐車場 料金300円	宮本、室野、 牧
5	春のありがとう観察会(野視) A:(四季美～カツラ)、B:(ふれあい～瑞穂の池)	8日(日) 10:00～14:30	7日(土) 春日順雄	交流館集合・解散	共催	昼食・ごみ袋・軍 手持参	春日、小林
	恵庭公園観察会	22日(日) 10:00～12:00	21日(土) 小林英世	恵庭公園中央駐車場 集合・解散	主催	昼食持参自由	小林、橋場
	三角山登山観察会	29日(日) 10:00～14:00	28日(土) 菅美紀子	緑花会館登山口集 合・解散	主催	昼食・飲料持参	菅、熊野
8	森の新緑観察会(野視) エゾユズリハ～志文別～大沢	5日(日) 10:00～12:30	4日(土) 吉田政徳	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	室野、吉田
	北広島レクの森観察会	12日(日) 10:00～12:30	11日(土) 室野文男	レクの森入口集合・解 散	主催	昼食持参自由	佐藤、
	アポイ・様似研修会	18(土)～19日 (日)13:00		様似町 アポイ研修 所	主催	アポイ岳ファンク ラブとの連携	小林、春日
7	初夏の森・登満別観察会(野視) 森林の家～カラマツ～樹木園～原の池	3日(日) 10:00～12:30	2日(土)	登満別駐車場 集合解散	主催	昼食持参自由	室野、土屋
	芸術の森周辺観察会	10日(日) 10:00～12:30	9日(土)	芸術の森停留所前集 合	主催	昼食持参自由	今村、三崎、 成田
	東大演習林研修会	15日(金)～16 日(土)13:00		富良野市麓舞 鶴資料館前	主催	富良野地区、 南部・宮田氏	小林、春日
	オオハongoソウ防除(野視)	24日(日) 10:00～12:30	23日(土)	交流館集合・解散	主催	軍手・草取り、 録 昼食持参 自由	室野 佐藤(清)
8	夏の森の観察会(野視) 瑞穂線～瑞穂の池～記念塔～開拓の沢	4日(木) 10:15～13:30	3日(水)	開拓の村集合・解散 記念塔(昼食)	共催	昼食持参	菅、伊藤
	鶴川研修会	20日(土)～2 1日(日)13:00		むかわ町四季館	主催	ネイチャー研究 会inむかわ 門 村	小林、門村
9	秋の花でにぎわう森を歩こう(野視) エゾユズリハ～志文別～四季美～カツラ	11日(日) 10:00～14:30	10日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参	内山、室野
10	秋の森の匂いをかごう(野視) 開拓の沢～ふれあい～交流館～瑞穂の池	13日(木) 10:15～14:30	12日(水)	開拓の村集合解散 (交流館昼食)	共催	昼食持参	
	北海道ボランティア・レンジャー 育成研修会(野 視)	21日(金)～2 3日(日)		交流館・野視森林公 園内	協力	募集開始9月	
11	晩秋の森観察会志文別コース(野視)	3日(木) 10:00～14:30	2日(水)	交流館集合・解散	主催	昼食持参	
	秋のありがとう観察会(野視) A:大沢・カツラ B:ふれあい・瑞穂連絡	13日(日) 10:00～12:30	12日(土)	交流館集合・解散	共催	ごみ袋・軍手・昼 食持参自由	
	西岡水源地自然観察会	23日(水) 10:00～12:30	22日(火)	管理事務所前集合・ 解散	主催		
1	円山登山観察会	15日(日) 10:00～12:30	14日(土)	円山登山口集合・解 散	主催		
2	冬の森の観察会(野視) 大沢～志文別～エゾユズリハ	12日(日) 10:00～12:30	11日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	
3	森の中で春をさがそう(野視) 大沢～志文別～エゾユズリハ	25日(日) 10:00～12:30	24日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	

ボラレンのホームページアドレス <http://hokkaidou.me/volaren/>

メーリングリストのアドレスはhbr-ml@floam.com

メールアドレスをお持ちの方でメーリングリストに参加されていない方は是非参加してください。

※前年度は平日、木曜日の観察会の下見は1週間前の木曜日に行なっていたが本年度は前日の水曜日に変更した。

※7月3日 初夏の森観察会は登満別駐車場集合で公共交通機関がないので注意

2011, 3, 26

## 春香山登山観察会

ボラレン小樽支部参加 大磯邦子

私のかつての登山は、汗をかき苦しい思いをし、山頂まで行き、おにぎりを食べて帰ってくるものでした。山に花が咲き、鳥が鳴き、種々の樹があることなどは考えもしないし、気付きもしませんでした。それを初めて知ったのは小樽支部の自然観察会に参加したときでした。その後機会がある度に参加させていただき、山を楽しんで歩くようになりました。

今回の3月末の春香山登山はスノーシューを履いての初めての参加でした。春山らしく雪は堅くなりつつありましたが、暖かい日でしたのでトップの方はぬかったと思います。後半にいた私が歩く頃には堅く締まった雪をつぼ足で快適に進むことができました。

花も広葉樹の葉もまだ芽吹いていないために、木の芽、木肌を十分に観察でき、青空に映える裸木の力強さを快く感じ取ることができました。宿り木を5個も付けた木。子だくさんのお父さんのよう。頑張っ。木肌がやわらかい緑色の木の名前が「泥の木」とは。もっといい名前を付けて欲しかった。蔓に絡まれ雪の重さ故に折れている木。それが山にとって、木にとって良いことなのか悪いことなのか。また、エゾリスの動きがかわいらしく、しばらく観賞できたのもこの時期ゆえに楽しめたことでした。

2時間ほど歩いたとき山荘が見えてきました。この時初めて気付きました。数年前に来たことがある所だと。そのときは木々に青い葉が茂り、今とは全く違う景色でした。それにしても…。

山荘の横で軽く食事をとり、スノーシューを履き、山頂に向かい直登。ゆっくりゆっくり歩いたけど思いの外時間もかからず到着。ゆっくり昼食の予定が、なぜか曇ってきて景色も寂しいため下山。新雪に自分の足跡を付けるのが愉しく、うれしさいっぱい下りてきました。

参加させていただく度にいつも思います。皆様の知識のすごさ、ボランティア精神の優しさ。おかげさまでいつも私の心は、自然のおおらかさに癒され明日を迎えることができます。心から感謝しています。また自然の中でお会いできる日を楽しみにしています。



## 春のありがとう観察会(5月8日)に参加して

藤田 潔

「ちょっとお山へ行ってくる。…」と息子に言い残しそそくさと森林公園へ。そこにはいつものようにふれあい交流館のスタッフとボランティア・レンジャーの方々が迎えてくれます。今日はあまり行ったことのない記念塔から瑞穂の池界限を廻るAコースを選びました。

挨拶の後、ほどなく出発。話にあったオオジギギは残念ながら見られませんでした。レンジャーの解説を聞きながら道を進みます。

実は、今日野性ランを確認したいものだと思っていました。去年の観察会で遠目ではありましたが、「アレはランの仲間ですね。」という言葉が耳に残っていたのです。野生ランが森林公園にあることは聞いていましたが、余程のことがない限りお目にかかれない高嶺の花と思っていました。今年、冬の終わりに森林公園をぶらついていると、ぽつぽつとそれらしきものが2~3種類。でも確信はありませんでした。ネットで見ても葉の形がずいぶん違います。ひよっとしたらと思ひ職場の裏の林を見てみると同じような葉が結構あって、こんな簡単に見つかるはずがない、やはり間違いか？再びネットを眺めていると“越冬葉”なるものが登場。まさしく職場裏の“ササに似たハッパ”そのものでした。これが解ったのが観察会の3日前。もうウキウキ気分。コース上でうまく見つけられたらレンジャーに確認してみようと画策します。

話を戻します。コースを進みながらレンジャーの皆さんそれぞれの引き出しから楽しい話があふれ出てきます。知らない植物も沢山教えていただきました。重要だと感じたのは“全体を見ること。”葉や冬芽が特徴的なものはまだしも芽が膨らんでしまったり、いわんや遠くの大木などは私はお手上げです。数を見ることでしょうか。そうこうするうちにうれしいことに本命のサイハイラン、トケンラン、アケボノシユスランが確認できました。感謝。なお当日拾ったゴミは意外に少なかったです。

蛇足ですが、職場裏の林には少なくとも3種以上のランがあるようです。間違ってもサルメンエビネでも混じっていないかと妄想をめぐらしてしまいます。ボランティア・レンジャーの皆さんに案内された世界にどっぷりつかかりそうです。うるさく付きまとうかもしれませんがこれからもよろしくお願いします。



## 下見会に参加して

江別市 土屋忠司

5月7日、春のありがとう観察会の下見に参加し、春日会長から「桜」について詳しく教えて頂いた。

今日の下見は、2コースに分れるため、出発前に参加者全員で「私が見たサクラ属」と題した資料を基に、エゾヤマザクラは実生で育てられるがソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンの間に生じた雑種で、接木で育てられたクローンであること。また、北海道のサクラの標準木は、以前はエゾヤマザクラでしたが現在はソメイヨシノであること。

カスミザクラは、花の色が白または微紅色で開葉と同時に花が咲くこと。また、枝と花柄のつけ根に1cmほどの総花柄があり、総花柄のないエゾヤマザクラとは判別の目安になること。

シウリザクラとウワミズザクラは、葉がでてから総状花序の花が咲き、ウワミズザクラの葉先はシウリザクラに比べると少し長いこと。ほかにもミヤマザクラ、ミネザクラ、チシマザクラ等について、開花時期、花の色、葉や花柄の特徴について、自分で撮られた写真やスケッチを使い解りやすく説明してくれました。

この後、明日回るコースの下見に出発、B班は6名でエゾユズリハコース、志分別コース、四季美コース、カツラコースを担当しました。

例年より寒い日が続いているが、園路沿いにはエンレイソウやエゾエンゴサクが咲いており、湿原ではミズバショウとエゾノリュウキンカが満開で、水面に映る姿が綺麗でした。

桜はシウリザクラが赤紫色の葉を開いていましたが、エゾヤマザクラ、カスミザクラの開花は、例年より遅れているようで花を見ることができませんでした。開花する頃にもう一度来て、今回教えて頂いた総花柄を頼りにしてカスミザクラを探そうと思いつながら12時過ぎに下見を終えました。

平成20年9月にボラレン育成研修を受講してから、もうすぐ3年、この間、下見や観察会で諸先輩の御指導をいただき、どうにか野幌森林公園で、観察会の案内が出来ようになりました。自然を楽しんでもらうには、案内人は樹木、草花、昆虫、野鳥等について幅広い知識が必要だと痛感しております。

今年度から試行されている「桜」等テーマにした下見は、知識を高め経験を豊かにする上で勉強になります。今後予定されている下見も楽しみにしています。

## 新しい試み（観察会の下見）

北海道ボランティア・レンジャー協議会 宮本 健市

新年度から新たにスタートした観察会の下見（4月20日）に参加して感じたこと。

北海道ボランティア・レンジャー協議会（以下ボラレン）では以前の下見の方法（観察会前の様子見）に加え得意な分野を有する人に講師役になっていただき、下見をしながら不得意なところを学びカバーする方法を取り入れることとなりました。

初回は、4月20日野幌森林公園にて、会員13名、交流館3名が参加し、道場 優氏に「野鳥観察について」と題し話題を提供していただき、4月21日の本番のための新しい試みの下見会が実施され、参加者はメモを取るなど熱心に聴講していました。

次回の下見会からも各分野について、順次実施される予定です。

私は、今まで野鳥については、ある程度の知識は持っているつもりでいましたが、実は知らないこと、参考になることばかりで目から鱗の状態でした。

21日の本番では、野鳥の渡りの時期でもあり、自然案内人として、さっそく学んだことを参考に、すこし幅広く自然を案内することができ、参加者に喜んでいただいたのではと自画自賛しています。

参加者の要求に答えられる自然案内人になるためには自学研鑽が重要な位置を占めるの言うまでもないことですが、なかなかできないのが現実です。

今回のような下見会を続けることは個人の充実になり、ボラレンの資質の向上にもつながり、ますますボラレンの発展に寄与するものと確信しました。

ボラレン内での知識の共有化は、懐の深い自然案内人を育成するのに必要不可欠と思います。

今後も下見会に積極的に参加して自己の充実に努め、ボラレンのさらなる進歩に貢献したいと思います。

### ☆西岡公園の植物調査、100種を紹介—内山さん、熊野さんが協力して☆

札幌市豊平区にある西岡公園—私たちも毎年<観察会>を実施している—の植物を「調査の会」のメンバーとして内山さん、熊野さんたちが4年かけて調査して、その成果が報告書としてまとめられた。道新の夕刊に写真入りでかなり大きく報道されていた。とても貴重な仕事です。

『報告書』は500円で販売。西岡管理事務所。

## 北広島レクの森下見会に参加して

今年から始めた下見会での話題提供として6月11日開催の北広島レクの森では室野氏が担当シダの話がありました。ジュウモンジシダとオシダぐらいしか分からない私は覚えるコツを教わりたいと思い参加しました。

最初にシダ植物の全体像の話、それから葉の呼び方、単葉・複葉、胞子葉、ソーラス、裂片等の話がありました。シダの2回羽状3回羽状とは中軸を除いて引っ張ってみて切取れる回数が2回だと2回羽状、3回だと3回羽状と知りました。沢山教わりましたが、1時間もしない内に皆同じに見えたり、忘れたり覚えるのはなかなか難題です。

「今日の目玉はメニッコウシダです。」と室野氏と宮本氏が言い出しました。

クジャクシダの羽片の1本を長く大きくしたようなすがすがしいシダです。ちょっと湿った林の中でかたまってゆらゆら揺れていました。メが付くので女性型というのでしょうか優しい感じのシダです。北広島レクの森は静かで行き交う人も少なく、オオメシダが緑濃く大きく育っていました。

今回の話題提供担当者は資料作りも参考図書の紹介も適切で、よく勉強されていると感じました。得意分野を持っている会員の話題提供下見会は、私にはとても有意義でありがたい一日でした。これからもこのような下見会には時間が許す限り参加して行こうと思いました。

熊野 美子

### ◎ 新しく会員になられた方々の名前 ◎

島中 茂 (江別市) 松原 條一 (登別市) 川上 由香里 (室蘭市)

村元 正巳 (豊富町) 芦田 孝 (旭川市) 鈴木 力 (音威子府村)  
(77) (62)

新山 彦司 (礼文町) 堀尾 博義 (白老町) 以上8人。  
(47)

## 蜂、特にスズメバチ撃退について 富良野市 南部 栄一

登山や野山遊び、自然観察でハチによる被害は地球温暖化の関係もありヒグマによる被害より多く報告されている。自分が趣味とする登山でも登山口から暫くは樹林帯かやぶ原を歩くコースが殆どでこの間にハチと遭遇することが偶にあるが森林限界を越えるとお眼にかかることはない。そして十数年前に森林関係者からハチの「手作り誘香液」の効能を聞き登山道、山小屋やノルディックウォーキングコースなどで試したところかなりの効果が確認されたので参考までに報告します。特に存在を認めてから使う撃退スプレーと違い予防効果は抜群なのが魅力で、高価なスプレーと違い手間を惜しまなければ酒、酢、砂糖と安価な誰でも何処でも設置できることも魅力です。

「誘香液」の作り方と設置法、

- ① 日本酒150cc、酢50cc、砂糖50gを混合させる。
- ② 1,5～2Lのペットボトルの底に3～4cm四角の穴を4ヵ所開ける。
- ③ このペットボトルの栓をして穴を開けた底面を上にして①の「誘香液」を入れて木の枝に吊るす。この場合子供が届かない高さにします。
- ④ 匂いと糖分に誘われて入り込んだハチは出られずに死んでしまいます。

効果

- ① 3週間でペットボトル容器設置の500m四方25haの範囲では自分の経験ではハチは容器にハチが満杯に認められ、その後ハチの巣は5年1例しか確認されていない。
- ② 500m間隔で設置することで観察地全体、登山道を森林限界までカバー出来る可能性が高い。

この方法で山小屋付近、登山道付近ではハチの巣が認められない等かなりの有意差で効果が確認されていると思っています。当会員の皆様も是非お試し下さればと思います。

以上ですがハチ被害を忌避するには次のようなことも言われている

- 1 服装対策「黒色の服装、帽子をさける」
- 2 匂い対策「香水など芳香を発する化粧を避ける」
- 3 忌避、殺中剤による対策
- 4 被害後の対策

害虫や雑草駆除にはバラ科の花の間にニンニクを植える、ニンジンのセンチュウ予防にはマリゴールドを植えるなど自然界の天敵によるものがあるが、カメムシ、エゾシカ、ハンコンソウにもないのだろうか？

# 平取町の植物

平取町 川村 桂介

## 1. はじめに

この「平取町の植物」は、平成15年から平成22年まで平取町の植物を調査し確認できたものの目録である。

調査範囲は、紫雲古津から振内迄の市街地や田畑、牧場、耕作放棄地、林や丘陵地それに沙流川や額平川の堤防や河川敷、川向周辺、ヌタツブ林道、アベツ林道、カンカン沢林道、生活環境保安林（義経公園）、森林公園（平取温泉）、ニセウの沢、幌尻岳登山道等である。振内や貫気別、豊糠周辺については、まだ少ししか調査が進んでいない。

この目録は、私が調べて確認できた範囲のものであり、しかも平取町全域にわたるものでもない。また、調査地域内でも見落とししているものが多々あると思われる。従って、これからも随時付加されていくべきものであり、8年間調査した結果の報告である。草本類、木本類、シダ類を合わせて現在880余種確認できている。

## 2. 特記すべき植物

### < エンレイソウの仲間たち >

平取町は、エンレイソウの宝庫である。1951年にヒダカエンレイソウが発見され一躍注目を浴びるようになった。そのヒダカエンレイソウが林道造成や森林伐採等の自然開発により、また心無い植物愛好家やそれを売って商いとする人達の盗掘等があったのだろうか、その数がだんだん少なくなってきている。

以前は、生活環境保全林でも多く生育していたようであるが、最近はほとんど見られなくなってきている。しかし、幸いにも川向の林道沿いの一部の林の中に何ヶ所か固まって出るところが残っている。平取町で見られるエンレイソウには、この他クロミノエンレイソウ、アオミノエンレイソウ、オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、シラオイエンレイソウがあるが、中でもシラオイエンレイソウはあちこちの林の中で群落を作っている。そのようなわけで、エンレイソウは平取町を代表する花といってもいいかもしれない。絶やさないように大切に護って行かなければならない花である。

### < オオアカネ >

オオアカネは、山地の林縁に稀に見られる蔓草である。図鑑には本州の関東北部から中部地方に、それに九州北部、朝鮮等の山地など限られた地域に分布するとなっているが、この日高と胆振にもごく稀に出るのである。そのような数少ない花が、近くの生活環境保安林や森林公園に生育しているのである。しかし、そのどちらの生育地も公園になっているので、美観を保つために林床の下草刈りが何回も行われている。それで、オオアカネの株も他の草と一緒に刈り取られていて花も実も付けずに終わる

ものが多いのである。この状態がずっと続いていくと、いつかは絶えてしまい無くなっていくのではないだろうか。草刈りもほどほどにしてほしいものである。

#### < エゾノカワジシャなど >

エゾノカワジシャは希少種ではないが、日高管内にあっては平取町以外ではまだ報告されていない花である。看々橋の下の東屋のある池の周辺に群生している。茎は這って広がり紫色の可憐な花を付けるゴマノハグサ科の植物である。義経公園を流れるオバウシナイ川の川岸でも見られるが、平成15年の豪雨の時に川が氾濫し根こそぎ持っていかれ僅かしか残っていない状態である。この他に他町から報告されていないものとして、アリノトウグサやカヤツリグサ科のイトヒキスゲ、マルホハリイ、ツルアブラガヤ、アズマナルコ、ヤマアゼスゲ等がある。このようにカヤツリグサの仲間が他町から報告されていないのは、地味で目立たない草なので見落とされたり、地理的・人的条件等で調査が思うようにできず後回しにされているのかもしれない。

#### < 林床の草刈りに喘ぐ希少植物たち >

生活環境保全林や平取町森林公園に出る花の中で、刈り払い機で刈り取られることで生存が脅かされているものとして、ウメガサソウやイチヤクソウ、ミヤマウズラ、ササバギンラン、ヒメアマナ、スズムシソウ、ジガバチソウ、アリノトウグサ、オオアカネ等がある。これからは、これらの花の花期や果期を避けて草刈りをする等、野の花たちにもやさしい公園の管理のあり方を志向して行かなければならないと思う。希少種に限らず、どんな植物でも花を付ける前に毎年刈り取られていたら、花との出会いを楽しみにやって来る人達はその花を見ることができないばかりでなく、いつかは消えていってしまうかもしれないのである。

#### < 最近めっきり少なくなってきた植物たち >

以前は、湿地で群生して見ることができたエゾノリュウキンカやサクラソウをあまり目にすることがなくなってきた。牧場や宅地用地あるいはリゾート用地として湿地の埋立などが進み花たちの生活の場が奪われていったためであろう。その他、以前人里近くでも見られたオミナエシやエゾリンドウ、サワギキョウ、ママコノシリヌグイ、オナモミ、ハナイカリ、ベニバナヤマシャクヤク等が、そして昔もそう多い花ではなかったがモメンズルやヒキヨモギ、クシロワチガイソウ等も滅多に見られなくなってきた。このことは自然開発が続くかぎり、益々進行していくと思われる。

#### < 平取町に生育している日高の固有種等 >

アポイタヌキラン（日高準固有種） アポイカラマツ（アポイ固有種）

エソトウウチソウ（日高山系固有種） イワヨモギ（北海道固有種）

額平川や仁世宇川の上流域など日高山脈の山麓を調べていったら、石灰岩や超塩基性岩上に生育する変形植物や日高固有種などまだまだ多く出て来ると思われる。

< 平取町にも生育している絶滅危惧種に指定されている植物 >

・エソトウウチソウ ・エゾムギ ・ヒメドクサ ・ヒメアマナ ・タチハコベ  
 ・クシロワチガイソウ ・コキツネノボタン ・アボイカラマツ ・エゾオトギリ  
 ・ベニバナヤマシャクヤク ・チドリケマン ・エゾノジャニンジン ・チョウセン  
 キンミズヒキ ・エゾシモツケソウ ・クロビイタヤ ・ソラチコザクラ ・ホソバ  
 ツルリンドウ ・エゾナミキソウ ・ホロマンノコギリソウ ・イワヨモギ ・オナ  
 モミ ・シラオイエンレイソウ ・アボイタヌキラン ・ジョウロウスゲ ・イトヒ  
 キスゲ ・ヒロハトンボソウ ・フクジュソウ ・ホザキシモツケ ・ウスイロスゲ  
 ・ノダイオウ ・シコタンキンボウゲ ・ヤマシャクヤク ・サクラソウ ・ヤマジ  
 ソ ・アギナシ ・ミズアオイ ・ミクリ ・タマミクリ

< 増え続ける帰化植物たち >

平取町は、近隣の町と同様軽種馬の牧草地が多く、酪農家や家畜を扱う農家もあり輸入牧草や家畜の飼料等に付随していろいろな外来の植物の種子が入り込んでいる。

また、河川や道路の工事等で削り取られた堤防や崖の斜面、路肩等の緑化のために芝草を施したり草の種を散布したりしているが、各地で朝鮮や中国など近隣諸国から持ってきた種が多く利用されているようである。また、札幌や旭川、帯広方面に通じる国道237号線が走っているため、トラック等の交通量が多く、それらの車が落ちていく植物の種子もけっして少なくない。このように平取町には、外来植物が多く入って来る要因が揃っているのである。(平取町の帰化植物を参照)

3. 平取町の植物目録


《 草本類 》 (\* 即ち 帰化植物)

◎ きく科

\*セイヨウタンポポ ・ノゲシ \*オニノゲシ \*ヒメジョオン \*ヘラバヒメジ  
 ョオン ・コウゾリナ \*コウリントンポポ ・アキタブキ ・ヤナギタンポポ  
 ・ハチジョウナ ・ヤクシソウ \*ノボロギク \*コシカギク \*シカギク \*カ  
 ミツレモドキ ・エゾノキツネアザミ ・タカアザミ ・オオノアザミ ・ヨモギ  
 ・オトコヨモギ ・イヌヨモギ ・オオヨモギ ・エゾノユキヨモギ ・チシマア  
 ザミ \*ヒメムカシヨモギ ・ハンゴンソウ ・モミジガサ ・ノブキ ・ヨブス  
 マソウ ・ノコギリソウ ・ホロマンノコギリソウ \*アメリカセンダングサ ・  
 タウコギ ・オグルマ ・カセンソウ ・ヒメチチコグサ ・ヤマハハコ ・エゾ  
 ゴマナ \*フランスギク ・エゾノコンギク \*ユウゼンギク \*ネバリノギク  
 \*ブタクサ \*オオアワダチソウ \*セイタカアワダチソウ ・ヒヨドリバナ ・  
 ヨツバヒヨドリ ・サワヒヨドリ \*トゲチシャ \*キクイモ \*セイヨウノコギ  
 リソウ \*アラゲハンゴンソウ \*キクニガナ \*アメリカオニアザミ ・トキン  
 ソウ \*ハキダメギク ・エゾタウコギ ・ミヤマヤブタバコ ・ミヤマアキノキ  
 リンソウ ・シラヤマギク ・ヤマニガナ \*オオハンゴンソウ \*アラゲハンゴ  
 ンソウ \*ハナガサギク ・センボンヤリ ・オナモミ ・メナモミ \*イガオナ  
 モミ、

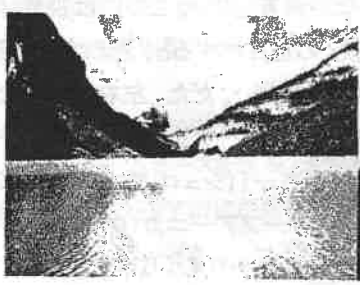
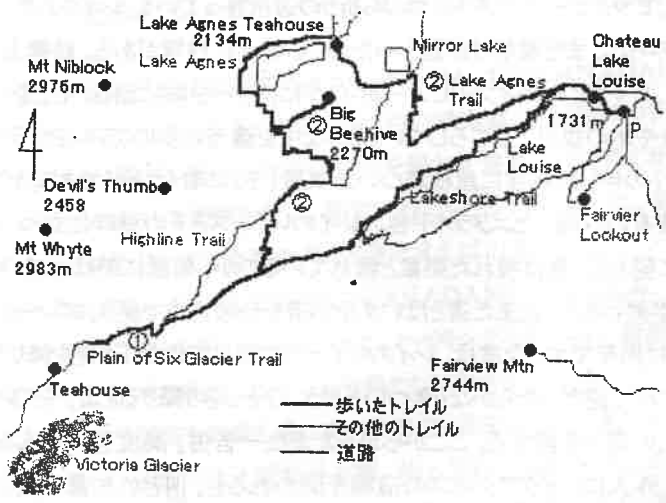
今から25年前新婚旅行で初めて行ったCANADA、私がCANADAに魅かれたのは、TVドラマ白いシリーズ、田宮次郎と山本陽子のTVドラマ「白い滑走路」で結婚式のシーンに使われていたバンフスプリングホテル、森林に囲まれた中に古城を思わせる建物にはためくカナダの国旗、こんなところが世の中に有るのかとの思いで衝撃を受け、絶対に行こうと思っていました。新婚旅行では宿泊が叶わず、また、当時山登りに傾注していた私の考える事と言えば山登り、そこで、ハイキングのコースを選び申し込むも、催行人数に達しなく、仕方なく別のCANADA旅行に申し込み、唯の観光旅行となる。バンフスプリングホテルに泊まる事も出来ず、また、ハイキングも叶わない結果となり、長年温めていた思いを成就させるべく、銀婚の記念でリベンジを果たしに行きました。今回は、ボラレンに成っていたので昔よりは、植物に対する興味も知識も違っていたので、花を見るのが楽しみとなりました。カナディアンロッキーの国立公園に入るには入園料が必要、個人旅行の手配済みなので、現地係員が既に支払済み、入園料を支払えば、何処に行こうが、登ろうが個人の責任、しかし、救助はきちんとしてくれるとの事、入園料は大人一人8.9ドル/日(一度払うとどの国立公園にも入れる)

今回のコースはロッキーの宝石と呼ばれるレイクルイーズを起点とするコースを考え、氷河上を歩くことのない妻にも行けるコースを選ぶ、やはり何かの頂上は踏みたい思いも有り、ビッグビーハイブ(2270M)を経由して、ビクトリア山にかかる6つの氷河が見えるプレイン・オブ・ザ・シックスグレイシャーと呼ばれるコースに決める。レイクルイーズはビクトリア女王の娘ルイーズ・キャロライン・アルバータ王女にちなんで名付けられた湖。このルイーズ王女はアルバータ州の州名にも名を残している。先住民族のストーン一族には「小さな魚の湖」と呼ばれていた。不思議な青緑色の湖水をたたえた宝石の様な氷河湖。まずは、ホテルのデリと呼ばれる軽食や飲み物を置いてある店に行き、昼食のサンドイッチを買う、湖畔に沿って進み、程なく山道に入ると。湖を右へまわってレイクアグネスへは、大きくジグザクをきって登っていく。このトレイルは、乗馬のコースにもなっているので、「落し物」を避けるように歩く。一時間ほどでレイクアグネスの下のミラーレイクに着く。ここから見上げるビッグビーハイブ(Big Beehive)は、「密蜂の巣」というその名の通り丸い頭の岩山なのである。ここからレイクアグネスのはしに立つテ

ィーハウスへ登り、その後ハウスレイクアグネスからレイクアグネスを半周した所に  バンクーバーオリンピックで有名になったイヌクシュク(イヌクシュクは、北極地方で広く見られる石を人間の形に積み上げた伝統的な道しるべで。それは、雪で真っ白に覆われ、他に目印になるものもない所で重要な役割を持っていた。中心にある孔から覗いて、その前方のイヌクシュクを探し、それで道がどうなっているかを通行する人たちは知ったと言う。また食べ物の貯蔵所を示したり、近くにある部落や住居を指し示したり、或いは狩りや魚を捕る好適地を教える道標でもあった。また、かつてはカリブが歩く道の両側にこれを造り、この裏に女、子供たちが隠れ、カリブが通りかかると後から大きな音を立てる、するとカリブは道を真っ直ぐに逃げ走り、その先で待ち構えている男達に仕留められると言う狩りの道具にも使われた事があったそうだ。まさに極北の地に住む人々の知恵と不屈の精神が込められた造形である。)



が道標として置かれていて感激をする。ビッグビーハイブへとつづら折りの道を登っていく。レイクアグネスのトレイルには、イワヒゲの仲間がみられ、まだ雪解けが遅かったのか、所々に残雪がある。結構上った後に小高い丘のような場所に出て、ビッグビーハイブのビューポイントに向かう分岐に出る。そこを左に曲がって向かう、ここからは石灰岩や木の根がごろごろしているような中を適当に歩いていくという感じ。なんやかやでやっとビューポイントの申し訳程度に屋根がついた東屋(?)に着くことができる。ビッグビーハイブの上に登ると、氷河湖特有の白濁したエメラルド色のレイクルーズとその湖畔に立つシャトー・レイクルーズが、すぐ足下に望める。妻は現れた栗鼠と戯れているのか、栗鼠に遊ばれているのか、大騒ぎをしている。腹ごしらえが終わると、元来た道とはいえない道を分岐点まで戻り、プレーン・オブ・シックス・グレイシャーズに向け出発です。今度は、レイクルーズに向けて急な下り道を降りていくことになる。この道はなかなかきつい。逆だったらかなりきついと思う。ひとしきり降りるとようやくレイクルーズのトレイルヘッドからの上の道と合流する。ここからがまたまた一苦勞。高度差はそんなにないものの、距離が長い。時々、外人にレイクアグネスの道程を聞かれるも、何とか片言の英語で対応する。今日の目標のティーハウスまで歩けど歩けどなかなか到着しない。この辺は視界が良くトレイルの先の方まで見渡せるのですが、ずっとトレイルが続くのを目にすると、思わず「まだかよ。」って言いたくなる。実際距離にすると3.5kmだから、まあしょうがない、ただ、左右にはかなり高山植物が咲いていたりして綺麗です。グラウスベリー(コケモモ属)・エバーグリーンパイオレット(スマレ属)・ホワイトグロウフラワー(キンバイソウ属)・フォルスヘルボアー((シュロソウ属) 棕櫚草(バイケイソウに近い)・ワイルドストロベリー(オランダイチゴ属)・ハートリーフアーニカ(ウサギギク属)・イエローヘザー(アオノツガザクラ)・イエローコロンバイン(オダマキ属)・ワイルドヘリオトロップ(カノコソウ属)アーリーブルーパイオレット(スマレ属)クリーピングバターカップ(キンボウゲ属)ドワーフバターカップ(キンボウゲ属)等々。時折氷河の崩落の音がするので、ビクトリア氷河を見ると、滝のように流れ落ちる氷河を見ることが出来る。シックス・グレイシャーズまで1.6キロ残して、展望広場からホテルへと戻ることとする。展望広場からは、Mt. Aberdeen(アバディーン 3152m)とリフロイ氷河を抱くMt. Lefroy(リフロイ)との間に The Mitre mountain が見えている。Mt.ビクトリアのビクトリア氷河はアッパーグレイシャーとロウワーグレイシャーに分かれている。ここまでの間、日本人には1人も会わず、外国を感じる。アルパインフォージットミーノット(ワスレナグサ科エゾムラサキ)の花やインディアンペイントブラシ、コモンバターウィート(ムシトリスマレ)スターフラワードソロモンズシール(ユリ科ユキザサ属)、レッドアンドホワイトベーンベリー(レイヨウショウマの仲間)が道々見られる。ホテルへの帰り道、ロッククライミングをやっている場所を通る。さすがに人気のトレイル、かなりの人とすれ違ふ、しかし、日本人には誰一人としてすれ違わない、湖畔に沿って道が続いており、湖に目をやると、真つ赤なカヌーが湖面に映えている。ホテル前まで来ると凄い人、昔と違い中国人が多く賑やかだ、約14キロを普段歩かない妻が歩ききり、足は靴ずれ、ボロボロの状態で歩ききる。お疲れ様でした。風景が足を進ませてくれたと思います。ホテルのお菓子屋さんで日本人のスタッフに会いホッと、ソフトクリームを食べ、今日の仕上げ、レイクルーズでのカヌーイングと酒落込む。



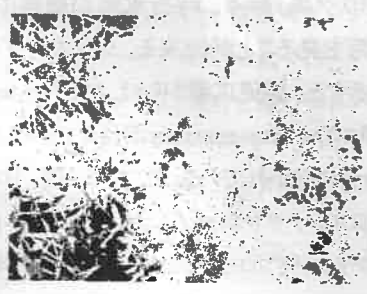
レイクルーズ



ビックビーハイブ



レイクアグネス



ウェスタン・アネモネ キンポウゲ科 イチリンソウ属

## ササの枯れたこと

苫小牧市 谷口勇五郎

3月中頃、観察会の下見のため、ウトナイ湖に流れ込む美々川でないもう1つの川、勇払川の上流部に出かけました。川に沿って湿原が広がり、向こう側は北大研究林とのこと。この時季は緑が乏しく、フッキソウやササ、ときどきナニワズヤフキノトウが見られるぐらいでした。葉がないので樹木の姿がよく見え、山道に沿ってつる植物が目立ちました。



スズタケの上部

折り返し地点から、方向を変え、小山を登り始めました。途中、スズタケの群落が一山ほど広がっていましたが、どれも葉がなく、すっかり枯れています。背丈ほどの笹原はとても歩きにくいものですが、枯れて斜めに立っているので余り苦労しないで進めました。帰宅後、ササの枯れた理由を考えました。ミヤコザサは1～2年毎に全山が枯れ、他のササ類は数十年に一度花を咲かせ、実を付け、全山が枯れると思っていました。ミヤコザサの場合、枯れるのは地上部で、地下茎の方は生きているのでしょう。

調べると、ミヤコザサの茎の寿命は1年、毎春、地下茎から筍を出し、世代交代をしていると言います。チシマザサは8年ぐらい、クマイザサはこれらの中間、スズタケは10年以上とも言います。ササの枯れたことについては、ササは地下茎でつながったクローンで寿命がくると辺り一帯のササが枯れる。これは数十年(50～70年)に一度、一斉に枯れると回復するのに十年以上かかるので、その間に樹木の種が発芽して成長し、ササより大きくなって光競争に勝つ、という説もあります。知人に尋ねると、シカの食害かも知れないとのこと。一群落が地下茎でつながる一群体かどうかは掘り起こせばわかるものの、とても掘りつくすことは出来ません。全部がつながっていて、数年にわたり殆どの葉をシカに食べられてしまい、全体に養分を供給しかねて、一群落が枯れてしまったのかも知れません。又は、沢山の別個体なのに何らかのしくみが働いて同調し合い、一群落が全部枯れたのかも知れません。

本番の時、移植ごととナイフを持参して出かけましたが、地面は凍結して、掘ることはできませんでした。近くにあるミヤコザサの群落は葉がかなり食べられ(茎に1～2枚は残っています)、シカの糞もあたりにあるものの、ササは生きています。例のスズタケの群落は数年前から枯れている様子でした。シカによる過度の食害なのか、寿命のためかわかりません。ササの群落のでき方と地下茎も含めた寿命について教えてください。

2011年5月5日

安倍 隆

4月30日から5月5日にかけて、実家のある福島市と相馬郡新地町を中心に様子を見て参りましたので報告します。

1. 福島市は普段の生活が戻ってきた



東北地方は春真っ盛り。何事もなかったように春の花々が野山を飾り、いつも通りに渡ってきたツバメは巣作りに励み、にぎやかにさえずっていた。自然は何も変わらず、人々の営みも福島市では以前の様子を取り戻しているように見えた。

しかしよくみれば、屋根瓦が落ちた家では、瓦が手に入らないためにブルーシートが貼ってある家があちらこちらにある。閉鎖されているビルもあるようである。道路には、亀裂が入ったため工事中の場所がまだあった。震災直後はもっと多くの場所で通行止めや

片側通行があったが、もう応急処置は完了しているとのことである。

神社仏閣の石灯籠や鳥居が壊れているのがあるが、そのままになっているのが痛々しい。余震は毎日のようにある。今後大きな余震があると言われているので、修理などに手がつかないといった面もあるようである。

商店街では、「がんばろう福島」「がんばろう日本」などののぼりが目立っていた。またいろいろな場所で市民を元気づけるようなイベントが開かれているようである。



2. 津波がきたところは無残



震災を乗り越えたかに見える福島市に対して、浜通り地方に広がる光景はあまりにも無残である。

津波がきたところは、見渡す限りの廃墟と、がれきの山、塩水をかぶって使えなくなった田畑、枯れて茶色に変色した竹林、車や船が田んぼだったようなところに置き去りにされている。JR常磐線の新地駅の近くの線路だったところは今、車が通る道になっていた。

震災以前の景色を知っているものでも、ここに何があったのか、想像すらできないところも多い。不適切な表現かもしれないが「焼野原」という言葉が浮かんできた。

しかしそれでも、震災直後から来ている自衛隊の方々の力ががれきの撤去はかなり進んだ状態だ。さらに最近では多くのボランティアの手で、倒壊を免れた住宅の泥の掻き出しや荷物の整理などが行われている。

仮設住宅の建設も急ピッチで進んでおり、復興は確実に進んでいると思われる。

新地町役場前では被災者や町民を対象にした炊き出しが行われていた。自衛隊の車両の展示もあり、ちょっとしたイベントになっていた。岡山県の部隊から来てくれていたある自衛官は3月20日からずっと作業をしてくれている。お礼を申し上げたところ、「このような復興に向けたイベントで地域の人々の笑顔が見られることが何よりもうれしい」とおっしゃってくれた。



### 3. 困惑の福島



震災からの復興が進む一方で、単純にそれを信じていることができない暗鬱な気持ちが福島には漂っている。原因は、解決のめどが立たない原発事故と、高い放射線量である。

これからどうなるのか？ 自分たちはどうすべきなのか？ あふれる情報で何を信じていいのかわからずに悩む人、むりやり自分を納得させて折り合いをつけている人、大規模な人体実験の被験者になっていると達観している人など様々である。

対応も人それぞれである。畑で野菜を作って食べても平気な人もいれば、年配の人でも怖くて畑仕事ができないと屋内にこもる人もいる。

意外なのはマスクの着用がごくわずかなことだ。子どもでもマスク着用率は10%にも満たなく、全体でも1%未満のように感じた。ある小学校では登校時に全員マスクと帽子をかぶっているとこのことであるが、ある高校では屋外でテニス部や野球部が何時間も練習をしていたし、マネージャもマスクをせずにグラウンドにいた。

福島県内でも、原発の立地町村に対する非難の声も聞かれるようになってきた。今までにさんざんいい思いをしてきた立地町村の人にはしょうがないのに、最も手厚く保障されるに違いない。その周辺の市町村は一切恩恵を受けていないのに避難させられたり、経済的にも精神的にも肉体的にも被害を受けているが、おそらく保障されることはないだろうという声である。

地震、津波、放射能、風評被害の被災に加え、原発立地町村とそれ以外の市町村の補償を巡っての反目という禍が起きようとしている。

気持ちを一つに復興に向けて前向きに進むことが、ここ福島では難しいかもしれない、と感じている。

以上

# 《 研 修 会 の ご 案 内 》

## (I) 鷓川研修会

わたり鳥（シギ・チドリ）に選ばれた日本の重要な渡来地の一つ鷓川河口はまた年間100～120種の野鳥が観察される場所です。長年観察を続ける会員の門村徳男さんによると今年4月にはナベヅルも飛来したそうです。その鷓川河口域で主にシギ・チドリと海浜植物の観察会です。海岸草原で珍しいツルマメ、浜辺では帰化植物のオニハマダイコン、砂丘陵地ではハナイカリ、オミナエシなど植物もバラエティーに富んでいます。

期日 2011年8月20日（土）～21日（日）

日程 ● 一日目（20日）

・13:00	道の駅「四季の館」前 集合
・13:30～16:00	鷓川左岸河口で観察します。
・16:00～18:00	入浴、夕食・懇親会・朝食の買い出し
・18:00～20:00	研修会、懇親会

● 二日目（21日）

・6:00	起床、朝食準備
・7:00～8:30	朝食、後片づけ、清掃
・9:00～11:30	鷓川右岸河口で観察します。
・12:00	道の駅「四季の館」前 解散

交通 ・札幌駅、地下鉄大谷地駅ターミナルより道南バス浦河行きで「四季の館」下車  
・乗用車に相乗り希望の方はその旨申し出て下さい。乗用車で参加の方はご協力  
お願いします。

宿泊場所 ふれあい町民会館（鷓川町松風町3丁目31 電話 01454-2-3648）

参加費 宿泊の方（2500円） 懇親会のみの方（1500円）

その他 ・ 宿泊場所には寝具がありませんので、寝袋などを持参して下さい。  
・ 夕食、懇親会用・朝食などの食料を購入しますのでご協力下さい。

締め切り 8月10日まで同封のハガキで切手を貼ってお申し込み下さい。

お問い合わせ 事務局 室野文男 電話 011-897-7186

メール [fum-murono@hokkaidou.me](mailto:fum-murono@hokkaidou.me)

## (II) キノコの研修会

道民の森に詳しい会員の松原健一さんの案内で午前中は遊歩道を歩きキノコを観察します。昼食後採集してきたキノコの解説をしていただきます。

第一回 9月15日(木) 10:00~14:00

第二回 10月5日(水) 10:00~14:00

- 1、集合時間 両日とも 9時45分
- 2、集合場所 両日とも 道民の森 月形地区、陶芸館前駐車場
- 3、定員 各回15人です。
- 4、交通 公共交通機関はありませんので乗用車をお願いします。相乗り希望の方はその旨申し出て下さい。乗用車で参加の方はご協力下さい。
- 5、その他 昼食持参。服装は長そで、長靴。虫よけ対策もお忘れなきよう!
- 6、締め切り 第一回、第二回とも9月5日(月)まで同封のハガキに切手を貼って申し込んで下さい。

お問い合わせ 事務局 室野文男 前ページ参照

内山恭子 011-386-1393 メール ukhisui@kke.biglobe.ne.jp

## (III) 東大演習林研修会

すでに皆様にはハガキでご案内済ですが、参加考慮中の方、まだ申し込み期限に間があると思っていらっしゃる方先着順ですのでお早目にお申し込み下さい。なかなか行かれない所ですので、この機会にご参加下さい。

お問い合わせ 研修部 小林英世 0123-36-3944 メール hideyof@mint.ocn.ne.jp

平成 23 年 5 月 30 日

各 位

北海道ボランティアレンジャー協議会  
オホーツク支部長 和泉 勇

平成 23 年度オホーツク支部秋季研修会について

(ご案内)

日頃より、当支部活動にご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきまして下記の通り開催致しますのでご案内致します。多数ご参加下さいます様お待ち申し上げます。

記

- 1、日 時 平成 23 年 9 月 3 日 (土) ～9 月 4 日 (日)
- 2、場 所 集合及び宿泊先 「知床岩尾別ユースホステル」  
—知床アウトドアガイドセンター—  
斜里郡斜里町字岩尾別  
☎ 01522-4-2633
- 3、日程等 9/3(土) 13:30 集 合  
14:00～ご希望に応じ岩尾別露天風呂 (混浴・無料) へご案内します。尚、ホテル地の涯の内風呂 (男女別・有料) もあります。  
16:30～18:00 研修会  
・講師 関口 均 氏 (知床岩尾別ユース代表)  
・テーマ 「ヒグマの生態と人との共存について」  
—知床におけるヒグマにまつわる話—  
18:30～懇親会  
9/4(日) 6:30 起 床  
7:00 朝 食  
8:00～10:30 現地研修 自然探索  
・「知床五湖めぐり」 (レクチャー料 1 人@250 円)  
11:00 現地解散
- 4、持ち物 洗面用具、タオル類、寝巻き
- 5、負担金 宿泊、懇親会込み 1 名 6,000 円 (当日現金にて申し受けます。)  
尚、当日の「岩尾別ユースホステル」は全館貸切で対応頂いております
- \* 連絡先 網走市潮見 5 丁目 122-15 (☎・FAX0152-43-1942)  
ボラレン・オホーツク支部事務局 <sup>ほしと</sup> 法師人 <sup>はるき</sup> 春輝  
E-mail hyes3781@coast.ocn.ne.jp





# ボランティア・レンジャー育成研修会

## 平成23年度 受講者 募集

北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人に楽しんでもらい、また自然環境を大切にもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみたい方など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか！

◇開催日 平成23年10月21日（金）～23日（日） 3日間の研修会です（雨天決行）

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園

◇内容 21日（金） 自然と楽しむ「アウトドアゲーム」、安全管理のための「救急法」  
22日（土） 自然やガイド方法に関する「講演」、  
自然体験・観察の「プログラム作成と解説方法」  
人と自然との関わり方の「観察会」・「ナイトウォッチング」  
23日（日） 「プログラムのフィールド発表」など  
※詳しいプログラムは裏面に記載しております。

◇費用 無料  
※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います。  
※各当日は原則、現地集合、現地解散となります。  
※自然ふれあい交流館（大沢口）の駐車場は無料。

◇定員 30名（受付期間：8月2日～9月30日 なお、定員になり次第締め切り致します。）

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて下記の必要事項を記入の上FAXでお送りいただくか、お電話で必要事項をお伝えの上、お申し込みください。

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッジを交付いたします。また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です。（希望者のみ）

主催：自然ふれあい交流館 共催：北海道ボランティア・レンジャー協議会

### ★お問い合わせ・お申し込み★

野幌森林公園 自然ふれあい交流館 (<http://www.kaitaku.or.jp/nfpvc.htm>)

〒069-0832 江別市西野幌 685-1 電話) 011-386-5832 FAX) 011-388-7058

〈キリトリ〉

お申込される方は、下記の申込票にご記入いただき送付いただくか、記入内容を電話でお伝えください

ふりがな 氏名	性別 男・女	年齢	才
住所：〒	電話番号： 緊急連絡先(携帯電話等)：		

来館手段： 公共交通 ・ 自家用車 ・ 自転車 ・ 徒歩

# ボランティア・レンジャー育成研修会 2011

## ～プログラム～

### ○1日目【10月21日(金)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:20	開講式・オリエンテーション
10:30～12:00	野外実習【アウトドアゲーム】 ～自然とのふれあいを楽しむ
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～16:00	救急法（一般講習）
16:10～17:00	講義【自然について】
17:00	終了・解散

### ○2日目【10月22日(土)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	野外実習【自然観察会】 ～ボランティア・レンジャーの活動の実際 ～自然体験活動の指導法
11:40～12:10	講義【プログラム作成と解説方法（導入）】
12:10～13:00	休憩（昼食）
13:00～14:30	講演【 現在調整中 】 講師：未定
14:40～17:30	実習【プログラム作成と解説方法】 ～グループワーク～
17:30～17:50	休憩
17:50～19:00	野外実習【ナイトウォッチング】
19:00	終了

### ○3日目【10月23日(日)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	実習【プログラム作成】 ～グループワーク～
11:30～12:30	休憩（昼食）
12:30～15:00	発表【フィールド発表】
15:00～15:30	ふりかえり
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉校式・アンケート記入、解散

※天候や主催者側の都合により、プログラムを変更する場合があります。

◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食・2日目夜の軽食など

◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場よりJＲ北海道バス「文京台循環線」乗車、  
【文京台南町】下車、徒歩10分

☆お申込みされた方には、開催1ヶ月前を目途に詳細な内容・プログラムなどを送付いたします。

指定管理者制度が導入され、一般財団法人北海道開拓の村が、自然ふれあい交流館を管理運営しております。



## ～ 事務局 便り



### <ご注意>

従来ボラレン会員全員が加入していました《ボランティア活動保険》を今年度（2011年4月）より加入中止としました。よって観察会などで活動されている方は十分に気をつけて下さい、また必要と思われる方は個人で加入をお願いします。

なお、ボラレン主催の観察会における一般参加者には従来通り札幌市社会福祉協議会の行事用保険に加入します。

### <お知らせ>

- ① キノコの研修会の日程が決まりました。9月はまだ先のことですが興味のある方はぜひ予定に組み込んで下さい。申し込みは同封のハガキでお願いいたします。
- ② 観察会は毎年、同時期・同コースで開催されますので前日の下見において内容が固定化しているように見受けられます。今年からより充実した下見としてテーマを持って話題を提供して下さる方に講師になっていただき観察会のコースを巡ることにしました。ベテラン、新会員共に沢山の話題を共有しながら自然にふれあい、スキル・アップが出来たらと願っています。

7月 2日 (土)	宮本健市さん	「昆虫」
7月 9日 (土)	成田伸一さん	「未定」
8月 3日 (水)	熊野美子さん	「身近な木々のはなしあれこれ」
9月10日 (土)	伊藤秀平さん	「竹 (ささ)」

# 自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成23年度 NO 1

平成23年4月21日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## ネコヤナギ (猫柳)

ヤナギ科ヤナギ属

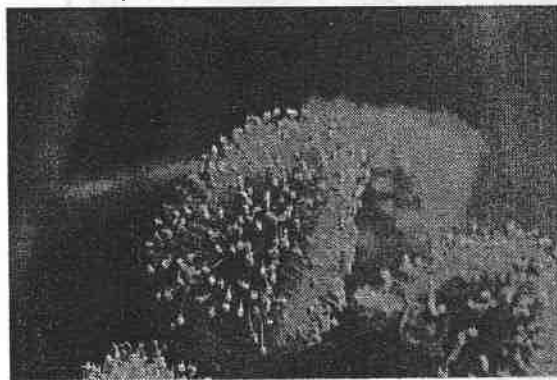


早春の芽吹き的美しさに誘われて猫柳を採りに行った人がいるのではないのでしょうか。乳白色に輝く芽吹きは、真珠や絹の輝きに似て美しい。頭巾状の袋(鱗片)に覆われた芽も美しい。

ヤナギの間には、雌雄異株。沢山の花が集まって尾状花序(花穂)を作ります。花びらはありません。これは一般にネコとよばれ、英語でもキャトキンといいます。芽吹き頃のヤナギ類をまとめてネコヤナギ(猫柳)といいます。

この時期のヤナギ類の総称です。写真をご覧ください。私たちの祖先は、古今東西をとわず、ヤナギ類の尾状花序を猫のシッポに例えたことを納得するでしょう。

ところが、ネコヤナギという種がありますから複雑です。北海道の場合、エゾノバッコヤナギを採ってきて「猫柳を採ってきた。」と、いうことがおおいです。そのことを、「それは、ネコヤナギではない。」という人もいます。あんまり気にしないで、日本文化に根付いた「猫柳」の言い方も大事にしましょう。

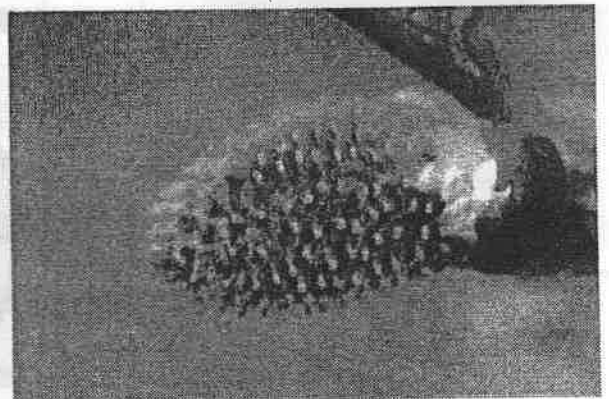


のような美しい毛の間から花柱が伸び、その先にふたまた状の柱頭が見られます。

ヤナギ類は、ケシヨウヤナギを除いたすべてが、密腺の発達している虫媒花です。早春の寒い時期なのに、花粉の運び屋の虫たちがいるんですね。長い進化の果てに、ヤナギ類の命をつなぐパートナーとしての花粉の運び屋の虫が活動しているのですね。驚きです。

写真は、エゾノバッコヤナギの雄花の花穂です。沢山の雄花が集まって花穂を作っているのです。黄色の粒に見えるのは葯です。花びらは退化してありません。退化して密腺に変わっているのだそうです。

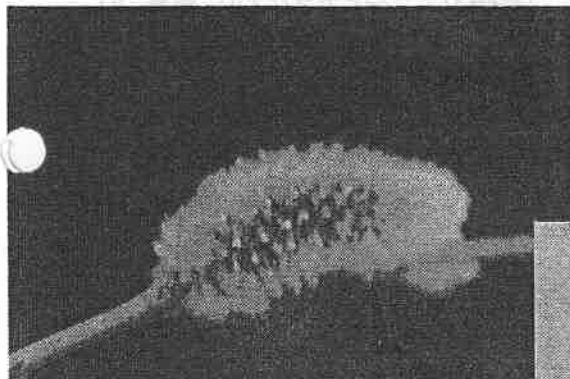
下の写真は、エゾノバッコヤナギの雌花です。雄花の葯の派手な黄色に比べると地味な感じですが、絹



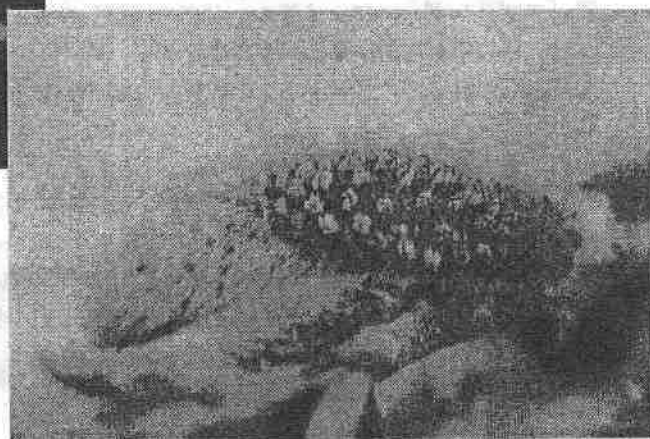
## ヤナギ類の種の同定はむずかしい

ヤナギ類は、どれもネコのシッポ状、しかも、葉も似ているものが多いです(例外もあります)。学者さんのなかにもヤナギ類の同定を敬遠する人がいるそうです。まして、素人同然の私たちですから…

かって観察会で、「これは、エゾノバッコヤナギです。」と説明したら、「どうやってエゾノバッコヤナギと同定したのですか。」と、質問を受けたことがありました。エゾノバッコヤナギとバッコヤナギの区別は学者さんにとってもむずかしいそうです。バッコヤナギは、北海道南西部分布。野幌近辺はみんなエゾノバッコヤナギと聞いていますから、前掲の写真でもエゾノバッコヤナギと書きましたが、問い詰められたら冷や汗ものであります。



今の時期、こんなヤナギの花も見られます。こちらの雄花はオレンジ色がかって美しい。葯が四つに分かれて見えます。ところが、何というヤナギなのか。図鑑を見ても分かりません。難しいです。



種子散布は柳絮(リュウジョ=綿毛)に乗って

種子がみえるのは、5月~6月。

種子には無数の長毛がつき、これを柳絮といいますが、種子は、柳絮に乗って遠くまで運ばれます。散布距離は、数百メートルから数十キロメートル、ずいぶん遠くまで運ばれます。

子の皮(種皮)は薄くて乾燥に弱いそうです。胚乳に養分を蓄えていないので軽いそうです。種子の寿命は3~5日と短命です(例外あり)。着地したらすぐに発芽しますが、好条件の場所に着地するとは限りませんから発芽率は高くはありません。長い進化の果てに、種子を軽くすることによって遠くに運ばれるという命のつなぎ方をしているのでしょう。

ところが、柳絮は人間にとって嫌われます。家の中にも飛んできますから嫌われるのでしょう。街路樹に柳を植えることもあるのですが、雄株だけを植える傾向があるそうです。柳絮が飛んでくるのを嫌うからでしょう。雄株だけの苗は、挿し木などで増やすのでしょう。

## ポプラはヤナギ科ヤマナラシ属

ポプラもヤナギ科ですから、綿毛を飛ばします。こちらは、楊絮(ヨウジョ)といいますが、ポプラの楊絮舞う頃は、必ず新聞記事に取り上げられる風物詩であります。

# 自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成23年度 No2

平成23年5月8日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

例年にない大雪の覆われていた北国の森もやっとな雪解けが進んで、春を告げる花々が咲き出してきました。野幌の森には、春一番を告げるウグイスの初音が聞こえ、カワラヒワなどの“夏鳥”も南から渡ってくる季節になってきました。ジジュウカラやヒガラなどの“留鳥”の鳴き声も、艶やかな“囀り（さえずり）”の声に変わってきたように聞こえます。

その花たちを見、鳥の囀りを聞くと、私たちの気持ちも高揚してきます。待ちに待った“春”の到来です！ その春を紹介しましょう！

## 早春を告げる花々

◎「スプリング・エフェメラル」（“春の妖精”の意）の花たち

春、雪の中からフクジュソウやカタクリ・エゾエンゴサク・ニリンソウなどの花々が顔を出して、森や林は冬のモノトーンの世界から鮮やかな色彩に変わります。

これらの花々は、別名を「春植物」とも呼ばれています。

春、雪が解け出すと一番に大きな花びらを開花させ、太陽の光をたくさん浴びて光合成を行い、栄養を蓄えます。そして、まだ寒くて少ないアブやハチや蝶などの昆虫を巧みに花に誘い込んで、受粉の手助けをさせます。

やがて実を結び、頭上の樹木が新緑の若葉で森を覆い尽くす前に、子孫を残すのです。早々に葉を枯らして、地中深く根をはり夏から秋そして、冬の間長い眠りについて”冬眠”をします。これが早春の花たちの生きる智慧なのです。

その「春植物」の代表的な花を紹介しましょう。

○ フクジュソウ（福寿草） キンポウゲ科

別名「元日草」とも呼ばれ、江戸時代の初期から全国で縁起の良い花として、正月の床飾り花に使われました。また、春真っ先に咲くので“まんさく”とも呼ばれます。

黄色の光沢のある花びらは萼（がく）片。花びらをバラボラアンテナのように開いて太陽の光を集め、虫の少ない時期にハナアブの体を温めて花粉を提供します。花の中の温度は外より10度も高くなるといいます。花は晴れた朝に開き、午後には閉じます。

草食動物から身を守るために、アドニンという強力な毒を持っています。

○ カタクリ（片栗） ユリ科

万葉の昔から“堅香子（かたかご）”と呼ばれて親しまれ、和歌に登場します。花びらが反り返って赤紫の六弁の花をつけます。その姿は“春の踊り子”を思わせるバレリーナのようなのです。花の蜜腺の上にW字状の斑点があり、そこに昆虫を誘って受粉を助けてもらいます。“片栗粉”はこの花の球根からデンプンを採って食用にしました。

葉が2枚にならないと咲かず、開花までは7年もかかります。そして、40年～50年と長い時間を生き続ける花なのです。

種子はアリによって運ばれて散布されます。

※ 「春植物」には、その他にキバナノアマナ、アズマイチゲ、ヒトリシズカ、オオバナエンレイソウなどがあります。ぜひ、“春の妖精”たちを探してみてください。

## “夏鳥”の到来

昔、北国の人々は鎌(にしん)のことを“春告魚”と呼びました。そして、ウグイスのことを“春告鳥”と言いました。これらがいずれも待ちに待った“春”を運んでくる生き物だったからでしょう。

ちょうど今、北国の森に春を運んでくるたくさんの「夏鳥」が渡ってくる季節になりました。北海道での「夏鳥」とは、繁殖するために北海道にやってくる渡り鳥のことです。春に渡って来て夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬する鳥のことです。

その代表的な鳥を紹介します。その中には、昔から「日本の三鳴鳥(めいちょう)」と呼ばれる鳥がいます。その鳥たちは、日本で囀りの声が一番素晴らしい鳥です。

### ○ ウグイス(鶯) ウグイス科

別名は、早春にさえずるので“花見鳥”とも言います。本州中部では留鳥か漂鳥です。

鳴き声は「ホーホケキョ」。聞きなしでは「法華経」となります。「ケキョケキョ」とけたたましく鳴くのは“谷渡り”と言って、警戒音です。

物の本によると、鳴き声にはその土地により方言があるとか？

体の色はオス、メス同色で、地味なオリーブ褐色です。実は“うぐいす色”とは、メジロの体の上面の色を言います。珍しいのは一夫多妻の鳥。オスはメスよりも少し大きいです。

### ○ オオルリ(大瑠璃) ヒタキ科

オスは名の通り、頭から上面は瑠璃色で、顔と喉から胸と脇腹は黒く、腹から下は白の美しい鳥です。

“声良し器量よし”の鳥は探鳥会では“人気者”です。

鳥は、さえずりは普通オスがしますが、この鳥はメスもさえずります。メスのさえずりは外敵を発見した時のオスへの伝達の鳴き声です。

沢浴いの高い木の頂きに注目して、見つけてください！

※ ちなみに“青い鳥”と言えば「オオルリ」、 “黄色い鳥”は「キビタキ」、 “赤い鳥”は「アカショウビン」、

ところが、北海道では最近はこの鳥の姿が全く見られなくなったので、“赤い鳥”は「ベニマシコ」になったようです。

### ○ コマドリ(駒鳥) ツグミ科

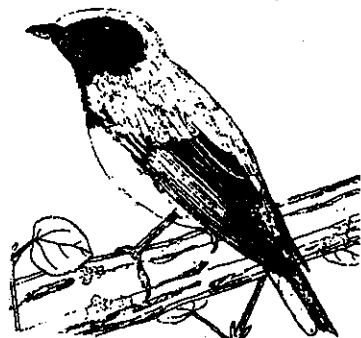
日本列島特産の鳥。英名はJapanese Robin。

オスは、頭部から胸にかけて赤い褐色で、背から上面はオリーブ色みの茶褐色。

鳴き声は「ヒンカラカラカラ」と張りのある美しい声。“駒鳥”の由来は、声が馬(駒)のいななきに似ていることから付けられました。山地の谷川に沿った森林で見られます。

学名は *Erithacus akahige*。命名したオランダの学者テミングが「アカヒゲ」(屋久島～与那国島に分布)と取り違えたため、今も誤記のような学名が使われています。

※ 他にもたくさんの「夏鳥」が森や林や草原、そして、湖沼・川・湿原・海にやって来ます。特に、木々の若葉が茂る前の春の森や林は、野鳥がよく見渡せる絶好のバードウォッチングの機会です。どうぞ、北国の春を野草と共に楽しんでください。



★6月の野視観察会 「森の新緑観察会」6月5日(日)10:00~12:30 ふれあい交流館

# 自然観察 Now

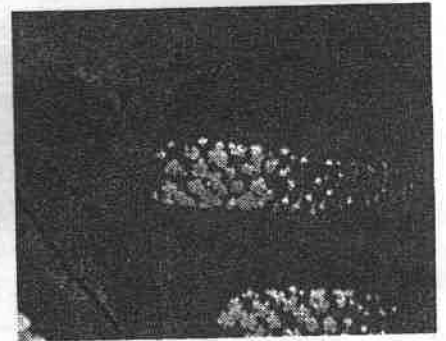
野幌森林公園自然情報  
平成23年度 特別号  
平成23年5月8日発行  
北海道ボランティア・レンジャー協議会

## その1 木の葉の開葉の時期には違いがある

などがあります。ほとんどの木々がまだ冬芽のまま。シラカンバの雄花とキタコブシの花芽が目立つくらい。そんな木々たちの中で、シウリザクラだけが赤紫色の全ての葉をいっせいに開こうとしています。(シウリザクラは他の桜と違い、葉を開ききった後の6月ごろに花を咲かせます。)

樹木は種類によって、葉を開く(開葉)時期が違います。  
**開葉が早い木**は、ナナカマド、シラカンバ、ハシドイ、イタヤカエデなどで、5月上旬から開葉します。我が家の庭では、シラカンバやイタヤカエデより早くシウリザクラが真っ先に開葉します。  
**開葉が遅い木**は、ニセアカシア(ハリエンジュ)、ブラタナス、ヤチダモ、オニグルミなどで、5月下旬から6月上旬にかけて開葉します。

遅霜  
初霜が降りてもニセアカシアの木だけが落葉せず、青々とした葉をつけていることは、開葉の時期が特に遅いことと関係しているのかもしれない。



シウリザクラの花

## その2 開葉の時期だけでなく、開き方にも違いがある

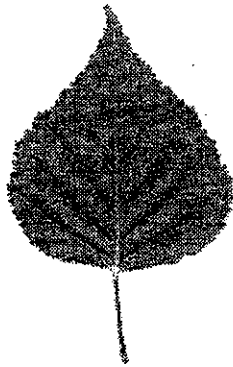
一つめは、全ての葉をいっぺんに開いてしまうタイプで、一斉開葉型と云い、イタヤカエデ、エゾヤマザクラ、ナナカマド、シナノキ、ミズナラなどがあります。開葉が始まると、10日くらいで新しい枝を伸ばし、全ての葉を開いてその年の体制を完成させてしまいます。葉は秋に落葉するまで枝についています。これらの木は、森林を構成する主な樹種で、少し薄暗くても育つことが出来るので、林業の言葉で弱光利用種といわれます。

二つめは、2ヶ月くらいかけて、次々に葉を開いていくタイプで、順次開葉型と云い、シラカンバ、ケヤマハンノキ、ヤナギ類などがこのタイプで、最初に開葉した後、枝を伸ばしながら1枚ずつ葉を開いていき、8月頃まで開葉が続きます。山地の溪流沿いの開けたところ、川原や空き地など、明るく水の豊富な場所を好み、強光利用種とも云います。



イタヤカエデの葉





シラカンバの葉

次々に葉を開いていくタイプの葉は、葉の寿命がわりと短く、最初の1枚の寿命は40日くらいで、全ての葉の平均寿命でも90日くらいです。全ての葉をいっぺんに開いてしまうタイプの葉は、秋の落葉まで葉をつけているので、葉の平均寿命は150日くらいあります。葉の寿命が短い順次開葉型の木は、明るく、光合成が活発に出来る場所に多く、葉の寿命が長い一斉開葉型の木は、薄暗い環境に多い傾向があります。

春の森に入って観察してみましょう。

どんな木が葉を開いていますか？

葉の開き方はどちらのタイプですか？

まだ葉を開いていない木はありませんか？

### その3 葉の開き方の違いは、秋の紅葉(黄葉)の仕方にも関係する

全ての葉をいっぺんに開いてしまうタイプの木は、秋には外側から色づきます。葉の寿命はほぼ同じなので、太陽の紫外線、風や寒さなどの影響を強く受ける外側の葉から色づきます。

次々に葉を開いていくタイプの木は、同じように風や寒さの影響を外側から受けるが、葉の寿命の影響をより強く受けてしまうため、内側の古い葉から色づいていきます。

今はまだ春ですが、秋に川原のヤナギの木を良く観察してみましょう。木の幹に近い内側の葉から色が変わっていきます。

#### 観察会の予定

- 5月22日(日) 「恵庭公園観察会」 10時00分～12時00分  
恵庭公園中央駐車場集合 (昼食持参自由)
- 5月29日(日) 「三角山登山観察会」 10時00分～14時00分  
緑花会館登山口集合 昼食・飲料持参
- 6月5日(日) 「森の新緑観察会」 10時00分～12時30分  
野幌森林公園 自然ふれあい交流館集合 (昼食持参自由)

## 野鳥観察が初めての人のための「野鳥観察入門」ガイドを中心に

2011.4.20 道ボラレン野幌観察会下見資料 (道場作成)

### I (はじめに)

- 1 野鳥の接し方についての話: 「やさしいきもち」で! → (口頭で)  
・静かに・近づかない・道路を外れない・優しい気持ちで見よう
- 2 双眼鏡の使い方の指導 → (実際に体験させる)  
① (基本用語)を教える(例: 8×30 8とは? 8.5°とは?)  
② 双眼鏡の使い方と注意
- 3 双眼鏡での野鳥の探し方の指導
- 4 さあ!野鳥の観て、楽しもう!! (探鳥の見どころ・鳥の注目点は?)  
① どんな姿? (尾は? 大きさは?・くちばしは?など)  
② どんな色? ③どんな鳴き声? ④どんなしぐさ? ⑤何を食べているの?  
⑥ どこにいたの? ⑦その他の特徴は?

### II (探鳥観察の実施) → (口頭で)

- 1 まず、鳥の声に耳をすます
- 2 そして、鳥の姿をさがす
- 3 じっと、鳥の生態(動き・しぐさ)を観る
- 4 自然の中で鳥が生息する意味について語る

### III (基礎的な知識)を知らせる (観察中に触れる → (口頭で・カードで・図鑑で)

- 1 「野鳥基本クイズ」① (導入編)  
(例: カラスの種類と鳴き声・トビの鳴き声と尾の形など)
- 2 野鳥の種類を知る  
① 留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥・迷鳥・漂鳥の区別は?
- 3 野鳥の識別法(ものさし)は?  
① オスとメスの違いは? → (口頭で・カードで・図鑑で)  
・色彩・声・ドラミングなど  
② 基準になる鳥の知る: 大きさ・体型・鳴き声・飛び方・止まり方・歩き方など  
“ものさし”鳥(スズメ・ムクドリ・ヒヨドリ・キジバト・ハシブトガラス・トビ)  
③ 主な野鳥の特徴(主に留鳥を中心に) → (口頭で・カードで・図鑑で)  
④ 鳴き声の判別法: 「地鳴き」と「さえずり」の違いは?・「聞きなし」法とは  
⑤ カラ類の区別(特徴) 「野鳥基本クイズ」② (応用編)  
・シジュウカラ・ハシブトガラ・ヒガラの違い  
⑥ 図鑑の利用法
- 4 名前を覚える方法は?: 和名・学名・英名から  
・和名(命名から・語源から・漢字からなど)
- 5 北海道の鳥について  
① 日本で北海道にしかない鳥とは?  
・北海道固有種と北海道だけに棲む鳥・来る鳥  
② 本州の鳥と北海道の鳥の違いは?: 亜種名と特徴
- 6 その他の初歩的な知識

### IV (探鳥会を終えて)

- 1 今日観た鳥はどんな鳥? (“鳥合わせ”・印象に残った鳥は?)
- 2 楽しかった点と反省点を聞く
- 3 まとめ

Ⅲ (基礎的な知識)を知らせる (観察中に触れる)

1 「野鳥基本クイズ」① (導入編) (※別紙)

(追加) Q 北海道の鳥は? Q 札幌の鳥は?

2 野鳥の種類 (※印は本州とは違うもの)

- ① 留鳥: 北海道に1年中すんでいて、季節的に移動しない鳥。  
(スズメ・シジュウカラ・ハシブトガラ・ヤマガラ・アカゲラ・フクロウなど)
- ② 夏鳥: 繁殖するために北海道にやってくる渡り鳥。  
春に渡って来て夏を過ごし、秋に南方へ渡って越冬する。  
(※ウグイス・※ヒバリ・※カワセミ・※アオジ・※ノゴマ・※カワラヒワ  
・※オンドリ・※アカハラ・※アオサギなど)
- ③ 冬鳥: 越冬するために北海道にやってくる渡り鳥。  
秋に渡って来て冬を過ごし、春に北方へ渡って繁殖する。  
(ツグミ・カモメ・セグロカモメ・オオワシ・オオハクチョウ・ホオジロガモなど)
- ④ 旅鳥: 渡りの時期に、北海道を通過する途中に立ち寄る渡り鳥。  
主に春と秋に通過するのが普通。  
(※マガン・※ヒシクイ・ナガガモ・ウミアイサ・カワアイサ・※ミコアイサ  
・ユリカモメなど)
- ⑤ 迷鳥: その種類の通常の分布域や、渡りのコースから大きくはずれて、北海道に  
渡って来た鳥。  
(※コウノトリ・コイカル・ヤマショウビン・※サンショウクイなど)
- ⑥ 漂鳥: 北海道に1年中すんでいて、夏に繁殖期には山地など標高の高い場所で過ごし、  
冬には里山や平地へ降りて来る鳥。  
(カケス・※キクイタダキ・※ギンザンマシコなど)

3 野鳥の識別法

① オスとメスの違い (なぜ違うのか?)

色彩: 一般的にオスはメスよりきれい。(キビタキ・マガモ・オンドリなど)

オスとメスが同じ色の鳥もいる。(シジュウカラ・カルガモなど)

声: オスがさえずる(ウグイス・カッコウなど)

ドラミング: (キツツキ類)(アカゲラ・ユゲラ・クマガラなど)

② 基準になる鳥の知る(ものさし鳥): 大きさ・体型・鳴き声・飛び方・止まり方・  
歩き方など

・大きさ(小) スズメ・ムクドリ・ヒヨドリ・キジバト・ハシブトガラス  
・トビ(大) ※ (別図参照)

③ 主な野鳥の特徴 (主に留鳥を中心に)

④ 鳴き声の判別法: 「地鳴き」と「さえずり」とは?

「聞きなし」法 ※ (別資料参照)

◎ 「地鳴き」と「さえずり」の違いは? →ボーイスレコーダーの利用

鳥には一年中聞かれる短い地味な声の「地鳴き」と、繁殖期に鳴く「さえずり」がある。

◎ 「聞きなし」法とは?

例えばウグイスが「ホーホケキョ」と鳴くと思っっているように、私たちが鳥の鳴き声を人の声  
におきかえて覚えることがある。これを「聞きなし」と言う。

3 野鳥の識別法

⑥ 図鑑の利用法

- (参考図書) 日本野鳥の会「野外ハンドブック①山野の鳥」¥510  
日本野鳥の会「野外ハンドブック②水辺の鳥」¥510  
亜璃西社「北海道野鳥図鑑」(河井大輔・川崎康弘・島田明英著) ¥2800  
北海道新聞社「北海道野鳥ハンディガイド」(大橋弘一著) ¥1700

4 名前を覚える方法: 和名・学名・英名

- ・和名: ・命名から: (例) ハシブトガラス (くちばしが太いカラス)  
ハシボソガラス (くちばしは細いカラス)  
カッコウ (カッコウと鳴くから) ※ (英名) (仏名) も同じ。  
ヒヨドリ (「ヒーヨ・ヒーヨ」と鳴くから) など
- ・語源から: (例) トビ (飛ぶ能力が優れているから「飛び」→トビ)  
スズメ (「スス」は小さい。「メ」は鳥・群れの意)
- ・漢字から: (例) エナガ (「柄長」尾がひしゃくの柄のように長いから)  
メジロ (「目白」目の回りが白いから) など
- ・英名: (例) コゲラ (Japanese Pygmy Woodpecker) 「日本の小さい啄木鳥」  
ヒレンジャク (Japanese Waxwing) 「日本のろうの翼」など
- ・学名: (例) カケス (「ドンダリの好きなおしゃべりな鳥」)  
ハクセキレイ (「白く絶えず(尾が)動く小さい者」) など

5 北海道の鳥について

① 日本で北海道にしかない鳥

北海道だけに棲む鳥・来る鳥: ハシブトガラ・ヤマゲラ・エゾライチョウ・  
コアカゲラ・ミユビゲラ・シマアオジ・シマフクロウ・オオワシ・オジロワシ・  
タンチョウ・ギンザンマシコ・ウミガラス・エトピリカ・ウトウなど

② 本州の鳥と北海道の鳥の違い: 亜種名と特徴

ゴジュウカラとシロハラゴジュウカラ (亜種)、  
エナガとシマエナガ (亜種)、カケスとミヤマカケス (亜種)、  
フクロウとエゾフクロウ (亜種)、  
コゲラとエゾコゲラ (亜種)、アカゲラとエゾアカゲラ (亜種)、  
オオアカゲラとエゾオオアカゲラ (亜種)、キバシリとキタキバシリ (亜種)、  
ヤマセミとエゾヤマセミ (亜種)、ヒヨドリとエゾヒヨドリ (旧亜種) など。

6 その他の初歩的な知識

- ① 観察地の特徴 (地形・生息場所など)
- ② 観察時期の特徴 (四季と鳥の種類など)
- ③ 観察地の主な鳥 (留鳥は?)
- ④ その他

## マルハナバチ

ボランティアレンジャー協議会 宮本 健市

マルハナバチは、膜翅目ミツバチ科マルハナバチ類の昆虫の総称です。

日本には4亜属21亜種が生息しています。

体の特徴は、ミツバチより一回り～2回り大きく、体の表面は部分ごとに黒、茶、黄、白色などの長い毛でおおわれています。毛の色の組み合わせは、その種によって独特のパターンがありフィールドなどで種の同定に大きな手がかりになります。

マルハナバチは、ミツバチと同じく女王バチを中心とした集団生活をする社会性の昆虫です。しかし、巣の持続期間が多年生のミツバチと違い1シーズンだけの1年性の生活史です。

巣は、地中（ネズミの巣穴）、木の穴、床下、壁の隙間などに作られます。

### 生活史

- ① 春4月中旬～下旬頃 越冬女王が冬眠から目覚め、巣作りの場所を探しはじめます。（ネズミの古巣、家や倉庫の床下など。地面近くをうろうろしています。）
- ② 初夏5～6月頃 営巣、産卵に成功して最初に産んだ卵が羽化し、働きバチが出現すると蜜や花粉集め、子育てなどをまかせて産卵に集中します。
- ③ 夏7～8月 次々と働きバチが誕生して巣が大きくなります。（多いときは数千頭の働きバチが出現することもあります。）
- ④ 8月中旬頃 次の年の営巣を担う新女王バチ（100頭以上＝在来マルハナバチの4倍以上）と雄バチが出現します。
- ⑤ 初秋9月上旬 新女王バチは、他の巣から産まれた雄バチと交尾し越冬に入ります。旧女王バチ、働きバチ、雄バチは徐々に死に活動を終えます。

### 北海道のマルハナバチ

北海道には、11種のマルハナバチが生息しています。ノサップマルハナバチ（道東）とミヤママルハナバチ（道南）を除き残り9種類は普通に見ることが出来ます。

### セイヨウオオマルハナバチ（以下セイヨウ）

トマト生産農家がトマトの花の授粉のため1991年から輸入（主にオランダ、ベルギー）し、トマトの生産量が拡大しました。日高地方の年間生産高は30億円近くになります。（輸入前は、人手でホルモン剤トマトーン（製品名）などを筆や霧吹きなどで花に塗り授粉していました。）

輸入当初から野生化の問題が指摘されましたが、行政や業者からの指導がなく1996年には野生化した巣が発見され問題となりました。農家の中には「よく働いてくれたハチだから」と野外に放虫する人もいたといえます。

2006年9月から行政がやっと重い腰を上げ「特定外来生物」に指定されました。現在は許可制でビニールハウスにはハチが逃げないようにネットで覆うなどの処置がされないと許可されません。

しかし、小さな虫ゆえに逃げるものも多く、また、指定前に逃げたものが野生化して拡散し、今では全道規模に広がりました。

## セイヨウの弊害

- ① 産地と気候が似ているため（北緯50度）繁殖しやすく、また繁殖力も非常に強い。
- ② 同種、他種を問わず巣に侵入し女王を殺し、巣を乗っ取る。
- ③ 舌が短いため盗蜜癖が強く、エゾエンゴサクやクリンソウ、高山植物のコマクサ（2008年6月に旭岳の姿見の池付近で捕獲）など多くの植物の授粉を阻害していると考えられます。
- ④ セイヨウの雄と、オオマルハナバチの女王が交尾するとオオマルハナバチの女王は受精卵は出来ても発育せず子供は産まれないのでオオマルハナバチは次第に衰退していきます。
- ⑤ ダニによる在来種の汚染（輸出元では2001年に対策済み）
- ⑥ 野付半島の少数種ノサップマルハナバチへの影響

## セイヨウ捕獲の注意点

- ① お尻が白いのが大きな特徴です。
- ② セイヨウは、おとなしく攻撃性が低いので向かってきて刺すことはほとんどありません。しかし、針は持っているので注意が必要です。（万一刺された場合は必要な処置を施し、念のため病院へ）
- ③ 4～6月と8月下旬の女王バチをねらって捕獲（女王バチ一匹で一つの巣を駆除したのと同じ効果があります。）
- ④ 捕獲網をしっかりとかぶせる。→網をつまんで持ち上げる。（セイヨウは上にあがってくる。）→フィルムケースや口の広いペットボトルなどを下から差し込んで閉じ込めふたをする。瞬間冷却スプレーをかけると死亡する。
- ⑤ 100円ショップなどで購入できるマニキュア用のエナメルうすめ液をティッシュペーパーに染み込ませ広口ビンに入れておくと毒瓶として使用できます。
- ⑥ 特定外来生物は生体のまま移動すると罰則が（個人には3年以下の懲役や300万円以下の罰金、法人には1億円以下の罰金）科せられます。
- ⑦ 女王バチの花粉団子の有無はとても大事な情報です。見逃さないようにしましょう。
- ⑧ 春に良く集まる花はツツジ類（エゾムラサキツツジ）、ムラサキツメクサ、エゾエンゴサクなどです。まず、咲いている花を見つけましょう。

参考文献 鷲谷いずみ・鈴木和雄・加藤真・小野正人 マルハナバチ ハンドブック 文一総合出版  
1997

- \* マルハナバチ媒花
- \* マルハナバチの舌の長さ
- \* 盗蜜癖・(盗蜜の痕跡)
- \* 振動授粉行動（花粉の集め方）
- \* ミューラー型擬態
- \* 限定訪花性
- \* 花に付いた爪痕
- \* カラスやモズも駆除に参戦

## 編集後記

- ・表紙は熊野美子さんがシダをスケッチしてくれました。  
今回も会員のみなさんから多くの原稿をいただきました。嬉しいことです。  
ところが「機関誌」を綴じる大きなホチキス、それで綴じれる限界が 40 ページ前後位で、それに今号には総会の議案 (p10) もあって掲載できない原稿が出てしまいました。編集方針として、多くの会員の原稿を載せることを最も大きなコンセプトにしてきたのですが、今回それができませんでした。特に、清水利章さんからは早くにもらった翻訳の力作「リクレーション」を掲載することができなくなりました。来春、2回に分けて掲載させてもらうことにしました。なお、その他に関してはなるべく次号に載せたい。
- ・入会者の増加—とっても嬉しいこと。『エゾマツ』95号では4人、96号では9人の方々を紹介しましたが、今回8人が入会されました。名前は「北広島レクの森下見会に参加して」のページ下段に記しています。協力しあって活動していきたい。
- ・事務局便りにもあるように、観察会などに参加された市民のみなさんには 100 円をいただいて保険をかけています。私たちは、昨年度は保険に加入しましたが、今年度は「ボランティア活動保険」に加入はしていません。必要とする人は自分で加入してください
- ・福島出身の安倍隆さんが震災や原発事故で被災された状況を鋭くヴィヴィットに書いてくれました。一読してください。安倍さんは福島など被災地にさまざまな支援活動をされています。
- ・今年度は下見会を行い、仲間が講師になって教えあったり、教えられたりしています。ぜひ参加してみてください。「研修会のご案内」を参照して。
- ・次回の発行は 10 月下旬、10 月 15 日までに原稿を広報部、北広島の佐藤まで送ってください。

『エゾマツ』 2011年度 夏季号 97号
2011, 6、24日 発行
会長 春日 順雄